1　企画展

万葉集 1250 年記念
万葉のこころを描く

●会期　平成21年４月25日（土）～６月７日（日）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館／読売新聞社
共催：奈良県立万葉文化館／「万葉のこころを未来へ」推進委員会
後援：平城遷都1300年記念事業協会
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　269×229㎜　144頁
発行：読売新聞社
●入場者数　22,544人
●観覧料　一般600（500）円／高大生400（300）円
小中生200（150）円
※（　）内は20名以上の団体料金
●出品点数　日本画　50点，スケッチ等15点
●内容解説

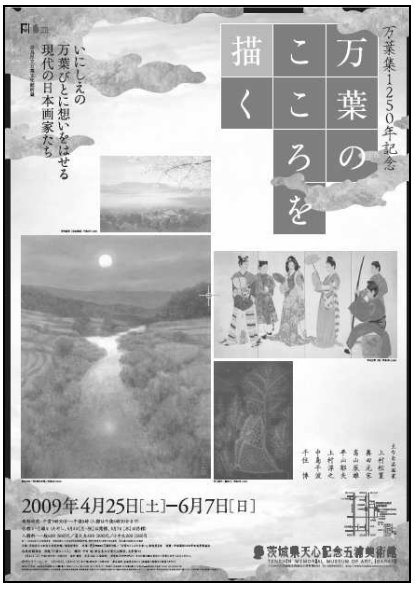
『万葉集』は五世紀頃から八世紀にかけて詠まれた詩歌の原点であり，我が国最古の和歌集である。大伴家持によって編纂されたと言われるこの歌集は全20巻，4500首余りの歌が集められ，古代に生きた万葉びとの豊かな人間性や宇宙観などが鮮やかに表現されている。

今年は，大伴家持が『万葉集』の最終歌を詠んだ759年から数えて1250年という節目の年にあたる。これを記念して，日本人の心のルーツである万葉文化の素晴らしさを広く全国に発信する「万葉のこころを未来へ」推進委員会と共催し，万葉集1250年記念「万葉のこころを描く」展を開催する。

本展では，奈良県立万葉文化館所蔵品から万葉歌をテーマに描かれた日本画50点を精選し，「第1章 自然」，「第2章 旅」，「第3章 恋」，「第4章 万葉びとと暮らし」の4つの章に分けて一堂に展示し，現代の画家たちが万葉の世界に想いをはせて描いた様々な表現を紹介する。描かれた日本画と古代の歌とのコラボレーションは時を超え，現代の私たちの新たな共感を呼ぶことだろう。

●担当　武石洋（首席学芸主事）
●関連イベント
ギャラリートーク
担当　武石洋（首席学芸主事）
日時　５月３日（日）　午後１時30分～
５月24日（日）　午後１時30分～
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ
美術講演会
演題　「万葉のこころ」
講師　中西　進（奈良県立万葉文化館長，文学博士）
日時　平成21年4月25日（土）午後2時30分～3時30分
会場　講堂
●関連記事
・万葉歌テーマ　日本画ずらり
平成21年４月17日（金）【読売新聞】
・万葉集1250年記念で企画展
平成21年４月21日（火）【朝日新聞】
・万葉に思いをはせ日本画の企画展
平成21年４月24日（金）【毎日新聞】
・万葉・日本画展　開幕
平成21年４月26日（日）【読売新聞】
・絵と歌が奏でる世界
平成21年４月26日（日）【茨城新聞】
・「万葉のこころ」展開幕
平成21年４月25日（土）【読売新聞（夕刊）】

図録



ポスター（B2）

チラシ（A4）

・日本画で描く　古代の思い
平成21年４月27日（月）【読売新聞】
・万葉集1250年記念　万葉の心を描く
『月刊美術』（５月号）
・現代日本画家が描くいにしえの想い
『書道界』（通巻234号）
・万葉の心を描く
平成21年４月23日（木）【両毛新聞】
・ぎゃらりいモール
平成21年４月28日（火）【読売新聞（夕刊）】
・万葉の心を描く（上）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月８日（金）【読売新聞】
平成21年５月18日（月）【福島民友】
・万葉の心を描く（中）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月９日（金）【読売新聞】
平成21年５月19日（火）【福島民友】
・万葉の心を描く（下）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月９日（金）【読売新聞】
平成21年５月20日（水）【福島民友】
・感じる古代人の息遣い
平成21年５月13日（水）【茨城新聞】
・万葉の宴と響きあう日本画
平成21年５月15日（金）【常陽新聞】
・「万葉のこころを描く」1万人突破
平成21年５月17日（日）【読売新聞】

●関連放送

・「夕刊ホット」
平成21年５月13日（水）【茨城放送】
・「スクーピーレポート」
平成21年５月９日（土）【茨城放送】
・地上波デジタル（茨城県内のニュース）
平成21年４月28日（火）【ＮＨＫデジタル】

出品作品一覧

自然

No.	作家名	作品名	制作年		大きさ(cm)	素材・形状
1	上村　松篁	春愁	平成10年	1998	92.0×65.0	紙本着色・額装
2	奥田　元宋	明日香川夕照	平成８年	1996	116.7×90.9	紙本着色・額装
3	工藤　甲人	炎立つ	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
4	松尾　敏男	鶴鳴きわたる	平成８年	1996	171.3×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
5	後藤　純男	新雪大和	平成10年	1998	121.5×173.0	紙本着色・額装
6	那波多目　功一	訪春	平成９年	1997	171.3×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
7	由里本　出	雪の大原	平成９年	1997	145.5×112.1	紙本着色・額装
8	大矢　十四彦	野遊	平成９年	1997	193.9×130.3	紙本着色・額装
9	下田　義寛	朝霧	平成11年	1999	145.5×112.1	紙本着色・額装
10	田渕　俊夫	はぎの頃	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
11	木下　育應	野路爽晨	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
12	中野　嘉之	水辺と千鳥	平成11年	1999	97.0×162.1	紙本着色・額装
13	辰巳　寛	月出づ	平成８年	1996	145.5×145.5	紙本着色・額装
14	林　功	万葉懐風	平成11年	1999	112.1×145.5	紙本着色・額装
15	東　俊行	月の影	平成10年	1998	130.3×162.1	紙本着色・額装
16	手塚　雄二	月読	平成11年	1999	104.8×116.7	紙本着色・額装
17	清水　操	立夏	平成９年	1997	145.5×97.0	紙本着色・額装
18	森田　りえ子	撫子	平成11年	1999	180.0×190.0	紙本着色・屏風二曲一隻
19	川﨑　麻児	月夜	平成11年	1999	90.9×116.7	紙本着色・額装

旅

20	川﨑　鈴彦	有磯海	平成11年	1999	167.0×221.0	紙本着色・額装
21	下保　昭	対馬の海	平成10年	1998	97.0×162.1	紙本着色・額装
22	中野　弘彦	吉野繚乱ー時雨	平成９年	1997	145.5×112.1	紙本着色・額装
23	岩澤　重夫	輝峰	平成11年	1999	193.9×112.1	紙本着色・額装
24	川﨑　春彦	鳥の声	平成10年	1998	112.1×162.1	紙本着色・額装
25	小山　硬	熟田津ー額田王	平成11年	1999	162.1×112.1	紙本着色・額装

No.	作家名	作品名	制作年		大きさ(cm)	素材・形状
26	坪内　滄明	奈良春霞	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
27	平松　礼二	路ー湖愁	平成９年	1997	112.1×162.1	紙本着色・額装
28	絹谷　幸二	大和国原	平成９年	1997	130.3×162.1	紙本着色・額装
29	土屋　禮一	滝	平成９年	1997	130.0×145.5	紙本着色・額装
30	後藤　順一	幻馬	平成10年	1998	130.3×162.1	紙本着色・額装
31	村上　裕二	瀬	平成11年	1999	110.0×122.0	紙本着色・額装
恋						
32	関口　正男	安見児	平成９年	1997	142.0×90.0	紙本着色・額装
33	平山　郁夫	額田王	平成９年	1997	116.7×80.3	紙本着色・額装
34	上村　淳之	佐保の詩	平成10年	1998	171.2×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
35	井上　稔	斑鳩夕景	平成８年	1996	97.0×130.3	紙本着色・額装
36	牧　進	薄暮	平成10年	1998	116.7×80.3	紙本着色・額装
37	福井　爽人	筑波嶺に雪かも	平成９年	1997	97.0×145.5	紙本着色・額装
38	川島　睦郎	菖蒲草	平成10年	1998	97.0×145.5	紙本着色・額装
39	倉島　重友	夏野	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
40	畠中　光享	春柳葛城山	平成８年	1996	130.3×97.0	絹本着色・額装
41	大野　俊明	清隅の	平成８年	1996	145.5×112.1	紙本着色・額装
42	千住　博	ウォーターフォール	平成11年	1999	130.3×162.1	紙本着色・額装
「万葉びと」と暮らし						
43	髙山　辰雄	弭の音	平成９年	1997	180.0×130.0	紙本着色・額装
44	大森　運夫	貧窮問答歌	平成10年	1998	145.5×145.5	紙本着色・額装
45	松岡　政信	あぶら火の	平成10年	1998	112.1×145.5	絹本着色・額装
46	烏頭尾　精	明日香風	平成９年	1997	112.1×162.1	紙本着色・額装
47	中島　千波	散りのまがひ	平成９年	1997	162.1×112.1	紙本着色・額装
48	青山　亘幹	刻	平成８年	1996	171.3×290.8	紙本着色・屏風四曲一隻
49	西田　俊英	秋山迷ひぬる	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
50	岸野　圭作	いはしろ	平成８年	1996	112.1×145.5	紙本着色・額装
素描						
51	川﨑　鈴彦	富山湾雨晴海岸（写生）	平成11年	1999	32.5×41.3	紙、ペン、パステル・額装
52	松尾　敏男	鶴鳴きわたる（素描）	平成８年	1996	45.5×50.0	紙、鉛筆、色鉛筆・額装
53	岩澤　重夫	輝峰（素描）	平成11年	1999	22.7×15.8	紙、鉛筆、顔彩、岩絵具、金泥・額装
54	烏頭尾　精	小下絵　明日香風	平成９年	1997	23.5×34.5	紙、鉛筆、水彩・額装
55	小山　硬	熱田津額田王（小下絵）	平成11年	1999	38.4×27.0	紙、鉛筆、墨、水彩、銀泥・額装
56	井上　稔	素描　斑鳩夕景	平成８年	1996	27.0×38,0	紙、鉛筆、水彩・額装
57	牧　進	紫式部（素描）	平成10年	1998	68.0×67.8	紙、墨、顔彩・額装
58	由里本　出	雪の大原（スケッチ）	平成９年	1997	32.8×49.5	紙、墨、水彩、パステル・額装
59	大矢　十四彦	天平の女（素描）	平成９年	1997	54.7×37.6	紙　鉛筆　水彩　色鉛筆・額装
60	下田　義寛	牡鹿（素描）	平成11年	1999	24.0×16.0	紙、鉛筆・額装
61	田渕　俊夫	はぎの頃（小下絵）	平成10年	1998	49.4×38.2	紙、鉛筆、パステル、顔彩・額装
62	絹谷　幸二	素描　大和国原	平成９年	1997	31.3×40.7	紙、鉛筆、オイルパステル・額装
63	林　功	万葉懐風（小下絵）	平成11年	1999	32.0×41.0	紙、鉛筆、水彩・額装
64	東　俊行	淀の月（素描）	平成10年	1998	32.7×49.7	紙、木炭、パステル・額装
65	森田　りえ子	万葉娘子	平成11年	1999	64.0×38.0	紙、鉛筆、色鉛筆、水彩・額装

大正ロマン・昭和モダン　大衆芸術の時代展 ～竹久夢二から中原淳一まで

●会期　平成20年７月11日（土）～８月30日（日）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館
企画協力：中右瑛（国際浮世絵学会常任理事）／E.M.I.ネットワーク
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　210×297㎜　132頁
編集：茨城県天心記念五浦美術館
発行：茨城県天心記念五浦美術館
●入場者数　23,508人
●観覧料　一般600（500）円／高大生400（300）円
小中生200（150）円
※（　）内は20名以上の団体料金
●出品点数　248点
●内容解説

明治40年の文展開催により，日本における会場芸術は本格的にスタートを切りましたが，その２年後，大正期に抒情的な女性像で一世を風靡した竹久夢二が初めての画集『夢二画集・春の巻』を出版し，印刷を主体として，イラスト，挿絵によって一般の人々が身近に楽しむ大衆芸術の大きな流れがその一歩を踏み出すことになります。

夢二に続き，高畠華宵や蕗谷虹児といった多くの画家たちがそれぞれ独自の作風により甘美な少女像，少年像を描き大正ロマンの風に乗って活躍することになります。さらに昭和期になると，モダンガール，モダンボーイ(モガ，モボ)と呼ばれた当世風の若者たちが文化の大きな担い手となって，いよいよ大衆文化は栄え，その波に乗るように中原淳一，岩田専太郎といった挿絵画家たちが輩出されてゆくことになります。

これに加えて，日本画家や洋画家たちも印刷の媒体に進出し，挿絵画家たちと相互に影響しあいながら，自らの本画制作にも新たな展開を見せるようになります。

本展覧会では，これら大衆芸術の様々な担い手による挿絵や原画，肉筆画，版画，雑誌，装丁本など，多種多彩な作品248点を一堂に展示し，会場芸術とは別な流れで，今日の漫画，アニメ文化へと引き継がれている，哀愁の大正ロマン，麗しき昭和モダンの世界をご紹介します。

●担当　稲葉睦子（主任学芸員）
●関連イベント

ワークショップ
「つくってあそぼう!!しかけすごろく」
講師　佐藤江利子（馳夫工房）
日時　8月8日[土]・9日[日]
各日1回目：午前9時45分～午後12時15分
2回目：午後1時30分～午後4時
会場　講座室
対象　小学生とその保護者

創作コーナー
「やってみよう　あそべるレトロぬりえ」
日時　会期中午前10時～午後4時　自由参加
会場　講座室

ギャラリートーク
担当　稲葉睦子（主任学芸員）
日時　８月１日（土）　午後１時30分～
８月22日（土）　午後１時30分～
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ

●関連記事

・マンガ文化の源流へ　大正昭和の大衆芸術
平成21年7月5日（日）【読売新聞】
・夢二らの代表作公開
平成21年7月7日（火）【朝日新聞】
・大衆芸術担った夢二ら
平成21年7月13日（月）【茨城新聞】

図録

ポスター（B2・B1）

チラシ（A4）

・哀愁の大正ロマン、麗しき昭和モダンの世界
　平成21年7月15日（水）【朝日サリーvol.252】
・夢二作品に大煙突
　平成21年8月18日（火）【茨城新聞】
・夢二が描いた日立鉱山　県天心記念五浦美術館に展示
　平成21年8月20日（木）【東京新聞】
・竹久夢二が日立鉱山をスケッチ
　平成21年8月26日（水）【常陽新聞】

●関連放送

・「みんなの教育」
　平成21年7月11日（土）【茨城放送】
・「スクーピーレポート」
　平成21年7月14日（火）【茨城放送】
・「いわきおもしろミュージアム」
　平成21年7月24日（金）【FMいわき】

出品作品一覧

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
Ⅰ	大衆芸術のパイオニア、竹久夢二			
1	竹久　夢二	舞妓	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
2	竹久　夢二	雛まつり	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	絹本・彩色
3	竹久　夢二	ワイングラス	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	絹本・彩色
4	竹久　夢二	春の灯や	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
5	竹久　夢二	春けき国へ	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	絹本・彩色
6	竹久　夢二	舞姫	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
7	竹久　夢二	松原の女	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
8	竹久　夢二	夏の宵	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
9	竹久　夢二	夏の女	大正3年～昭和9年頃(c.1914-1934)	紙本・彩色
10	竹久　夢二	さみだれや	大正15年頃(c.1926)	紙本・彩色(屏風)
11	竹久　夢二	星まつり	大正15年頃(c.1926)	絹本・彩色
12	竹久　夢二	自画像	大正15年～昭和9年頃(c.1926-1934)	紙本・彩色
13	竹久　夢二	化粧の女	制作年不詳	絹本・彩色
14	竹久　夢二	港屋絵草紙店	大正3年(1914)	木版(港屋版)・紙
15	竹久　夢二	小春	大正3年(1914)	木版(柳屋版)・紙
16	竹久　夢二	治兵衛	大正3年(1914)	木版(港屋版)・紙
17	竹久　夢二	化粧	大正3年～5年頃(c.1914-1916)	木版(港屋版)・紙
18	竹久　夢二	黒猫を抱く女	大正8年頃(c.1919)	木版(柳屋版)・紙
19	竹久　夢二	可愛や胡蝶『セノオ楽譜』	大正6年(1917)	オフセット・紙
20	竹久　夢二	鐘『セノオ楽譜』	大正6年(1917)	オフセット・紙
21	竹久　夢二	暮れて行く『セノオ楽譜』	大正9年(1920)	オフセット・紙
22	竹久　夢二	ボガボガ・ベルラ『セノオ楽譜』	大正12年(1923)	オフセット・紙
23	竹久　夢二	陽気な鍛冶屋『セノオ楽譜』	大正13年(1924)	オフセット・紙
24	竹久　夢二	桜町『セノオ楽譜』	大正13年(1924)	オフセット・紙
25	竹久　夢二	さらば我世の幸福よ『セノオ楽譜』	大正13年(1924)	オフセット・紙
26	竹久　夢二	サフォー頌歌『セノオ楽譜』	大正15年(1926)	オフセット・紙
27	竹久　夢二	我家の唄『セノオ楽譜』	大正15年(1926)	オフセット・紙
28	竹久　夢二	我を偲び給へ『セノオ楽譜』	大正5年～昭和4年(1916-1929)	オフセット・紙
29	竹久　夢二	星合『婦人グラフ』の挿絵	大正13年(1924)7月号	木版(機械刷)・紙
30	竹久　夢二	花火『婦人グラフ』の表紙絵	大正13年(1924)8月号	木版(機械刷)・紙
31	竹久　夢二	勇敢な恋人『婦人グラフ』の挿絵	大正13年(1924)8月号	木版(機械刷)・紙
32	竹久　夢二	秋『婦人グラフ』の表紙絵	大正13年(1924)9月号	木版(機械刷)・紙

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
33	竹久　夢二	童話『婦人グラフ』の挿絵	大正 13 年(1924)9 月号	木版(機械刷)・紙
34	竹久　夢二	化粧の秋『婦人グラフ』の表紙絵	大正 13 年(1924)10 月号	木版(機械刷)・紙
35	竹久　夢二	秋のしらべ『婦人グラフ』の表紙絵	大正 13 年(1924)11 月号	木版(機械刷)・紙
36	竹久　夢二	麻利耶観音『婦人グラフ』の挿絵	大正 13 年(1924)11 月号	木版(機械刷)・紙
37	竹久　夢二	寝椅子『婦人グラフ』の挿絵	大正 13 年(1924)11 月号	木版(機械刷)・紙
38	竹久　夢二	1926 年春『婦人グラフ』の表紙絵	大正 15 年(1926)1 月号	オフセット・紙
39	竹久　夢二	如月の伝説『婦人グラフ』の表紙絵	大正 15 年(1926)2 月号	木版(機械刷)・紙
40	竹久　夢二	APL FOOL『婦人グラフ』の表紙絵	大正 15 年(1926)4 月号	オフセット・紙
41	竹久　夢二	雪の夜の伝説『婦人グラフ』の口絵	大正 15 年(1926)12 月号	木版(機械刷)・紙
42	竹久　夢二	素描(手帳より)-1	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
43	竹久　夢二	素描(手帳より)-2	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
44	竹久　夢二	素描(手帳より)-3	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
45	竹久　夢二	素描(手帳より)-4	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
46	竹久　夢二	素描(手帳より)-5	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
47	竹久　夢二	素描(手帳より)-6	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
48	竹久　夢二	素描(手帳より)-7	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
49	竹久　夢二	素描(手帳より)-8	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
50	竹久　夢二	素描(手帳より)-9	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
51	竹久　夢二	素描(手帳より)-10	大正 7 年頃(c.1918)	鉛筆・紙
52	竹久　夢二	関東大震災-1『都新聞』の挿絵	大正 12 年(1923)	インク・紙
53	竹久　夢二	関東大震災-2『都新聞』の挿絵	大正 12 年(1923)	インク・紙
54	竹久　夢二	朝顔	制作年不詳	インク・紙
55	竹久　夢二	少年と魔女　楠山正雄訳著『日本児童文庫　世界童話集(中)』の挿絵	昭和 2 年頃(c.1927)	インク・紙
56	竹久　夢二	母親　楠山正雄訳著『日本児童文庫　世界童話集(中)』の挿絵	昭和 2 年頃(c.1927)	インク・紙
57	竹久　夢二	著作本『三味線草』	大正 4 年(1915)	書籍[新潮社]
58	竹久　夢二	吉井勇著『祇＊園双紙』の装丁	大正 6 年(1917)	書籍[新潮社]
59	竹久　夢二	著作本『恋愛秘語』	大正 13 年(1924)	書籍[文興院]
60	竹久　夢二	著作本『童謡の本・凧』	大正 15 年(1926)	書籍[研究社]
61	竹久　夢二	著作本『露台薄暮』	昭和 3 年(1928)	書籍[春陽堂]
62	竹久　夢二	文芸雑誌『若草』の装丁	大正 15 年(1926)5 月号	雑誌[宝文館]
63	竹久　夢二	文芸雑誌『若草』の装丁	昭和 4 年(1929)7 月号	雑誌[宝文館]
64	竹久　夢二	文芸雑誌『若草』の装丁	昭和 4 年(1929)8 月号	雑誌[宝文館]
65	竹久　夢二	文芸雑誌『若草』の装丁	昭和 5 年(1930)7 月号	雑誌[宝文館]
66	竹久　夢二	文芸雑誌『若草』の装丁	昭和 5 年(1930)11 月号	雑誌[宝文館]
67	竹久　夢二	東京九段つるや画房出版の絵葉書	明治 43 年～大正 9 年頃(c.1910-1920)	絵葉書(20 枚)
68	竹久　夢二	少女十二ヶ月双六『少女倶楽部』の付録	昭和 3 年(1928)1 月号	双六

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
Ⅱ	大正ロマン・昭和モダンの旗手たち			
69	高畠　華宵	花吹雪舞妓	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
70	高畠　華宵	ほたる籠	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
71	高畠　華宵	あじさい娘	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	絹本・彩色
72	高畠　華宵	梅下女性図	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	絹本・彩色
73	高畠　華宵	八幡太郎義家	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	絹本・彩色
74	高畠　華宵	逝く春	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
75	高畠　華宵	白拍子	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
76	高畠　華宵	正月の羽根	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
77	高畠　華宵	正月(羽根つき)	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	紙本・彩色
78	高畠　華宵	シューベルト	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	絹本・彩色
79	高畠　華宵	祇＊園夜桜	昭和 6 年～30 年頃(c.1931-1955)	絹本・彩色
80	高畠　華宵	南国の唄『少女画報』の口絵	制作年不詳	彩色・紙
81	高畠　華宵	花をいだいて(鈴蘭)	制作年不詳	彩色・紙
82	高畠　華宵	京舞妓(柳)	制作年不詳	彩色・紙
83	高畠　華宵	娘(芙蓉)	制作年不詳	彩色・紙
84	高畠　華宵	娘二十まで-1『婦女界』の挿絵	大正 15 年頃(c.1926)	インク・紙(2 枚)
85	高畠　華宵	娘二十まで-2『婦女界』の挿絵	大正 15 年頃(c.1926)	インク・紙(2 枚)
86	高畠　華宵	娘二十まで-3『婦女界』の挿絵	大正 15 年頃(c.1926)	インク・紙(2 枚)
87	高畠　華宵	娘二十まで-4『婦女界』の挿絵	大正 15 年頃(c.1926)	インク・紙(2 枚)
88	高畠　華宵	妻は何処に『婦女界』の挿絵	大正 15 年(1926)	インク・紙(3 枚)
89	高畠　華宵	渡辺崋山　河井酔茗著『日本児童文庫　日本立志物語』の挿絵	昭和 3 年頃(c.1928)	インク・紙
90	高畠　華宵	愚庵　河井酔茗著『日本児童文庫　日本立志物語』の挿絵	昭和 3 年頃(c.1928)	インク・紙
91	高畠　華宵	七転八起開運出世双六『講談倶楽部』の付録	大正 13 年(1924)1 月号	双六
92	高畠　華宵	武運を祈りて『恤兵』の付録	昭和 7 年(1932)	絵葉書
93	高畠　華宵	華宵浴衣絵葉書　夕空	昭和初期	絵葉書
94	橘　小夢	楽屋化粧	制作年不詳	絹本・彩色
95	橘　小夢	お姫様	制作年不詳	絹本・彩色
96	橘　小夢	お小姓	制作年不詳	絹本・彩色
97	橘　小夢	刺青	大正 12 年(1923)	木版・紙
98	橘　小夢	水魔	昭和 7 年(1932)	オフセット・紙
99	橘　小夢	唐人お吉	昭和 8 年(1933)	木版・紙
100	橘　小夢	お蝶夫人	昭和 9 年(1934)	木版・紙
101	橘　小夢	タカラジェンヌ	昭和期	木版・紙
102	橘　小夢	タカラジェンヌ(着帽の図)	昭和期	木版・紙
103	蕗谷　虹児	さくら貝	昭和 47 年(1972)	紙本・彩色
104	蕗谷　虹児	花嫁人形	制作年不詳	紙本・彩色
105	蕗谷　虹児	雪うさぎ	制作年不詳	紙本・彩色
106	蕗谷　虹児	山上『婦人グラフ』の挿絵	大正 13 年(1924)7 月号	木版・紙
107	蕗谷　虹児	お留守居『令女界』の表紙絵	大正 11 年(1922)11 月号	彩色・紙
108	蕗谷　虹児	[作品名不詳]	大正 15 年頃(c.1926)	インク・紙
109	蕗谷　虹児	『童幼の国』の表紙絵	大正 15 年頃(c.1926)～昭和期	彩色・紙
110	蕗谷　虹児	『少女クラブ』の口絵	昭和 27 年(1952)	彩色・紙
111	蕗谷　虹児	『少女クラブ』の口絵	昭和 27 年(1952)	彩色・紙

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
112	蕗谷　虹児	［作品名不詳］	制作年不詳	インク・紙
113	蕗谷　虹児	姉妹仲よし双六『少女画報』の付録	大正 11 年(1922)1 月号	双六
114	蕗谷　虹児	震災画報	大正 12 年(1923)	絵葉書(16 枚)
115	蕗谷　虹児	『令女界』の表紙	昭和 9 年(1934)8 月号	雑誌［宝文館］
116	蕗谷　虹児	『令女界』の表紙	昭和 9 年(1934)9 月号	雑誌［宝文館］
117	蕗谷　虹児	『令女界』の表紙	昭和 9 年(1934)10 月号	雑誌［宝文館］
118	蕗谷　虹児	『令女界』の表紙	昭和 10 年(1935)2 月号	雑誌［宝文館］
119	蕗谷　虹児	『令女界』の表紙	昭和 11 年(1936)6 月号	雑誌［宝文館］
120	蕗谷　虹児	ビゼー アルルの女	昭和 14 年頃(c.1923)	レコードジャケット
121	松本　かつぢ	ばらの少女	昭和 20～30 年代頃(c.1945-1964)	彩色・紙
122	松本　かつぢ	みずうみのほとり	昭和 20～30 年代頃(c.1945-1964)	彩色・紙
123	松本　かつぢ	アリゾナの緋薔薇『少女の友』の挿絵	昭和 26 年(1951)12 月号	インク・紙
124	松本　かつぢ	アリゾナの緋薔薇『少女の友』の挿絵	昭和 26～27 年(1951-1952)	インク・紙
125	松本　かつぢ	アリゾナの緋菩薇『少女の友』の挿絵	昭和 27 年(1952)7 月号	インク・紙
126	中原　淳一	サイン色紙	昭和 31 年(1956)	インク・紙
127	中原　淳一	サイン色紙	昭和 31 年(1956)	インク・紙
128	中原　淳一	北条誠著「緑はるかに」『読売新聞』の挿絵-1	昭和 29 年(1954)	インク・紙
129	中原　淳一	北条誠著「緑はるかに」『読売新聞』の挿絵-2	昭和 29 年(1954)	インク・紙
130	中原　淳一	あしながおじさん『ジュニアそれいゆ』	昭和 29 年(1954)7 月号	彩色・紙
131	中原　淳一	最後の一葉『ジュニアそれいゆ』	昭和 31 年(1956)9 月号	彩色・紙
132	中原　淳一	イノック・アーデン『ジュニアそれいゆ』	昭和 34 年(1959)1月号	インク・紙
133	中原　淳一	挿絵(王子の図)	昭和期	インク・紙
134	中原　淳一	挿絵(姫の図)	昭和期	インク・紙
135	中原　淳一	娘十ニケ月　1 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
136	中原　淳一	娘十ニケ月　2 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
137	中原　淳一	娘十ニケ月　3 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
138	中原　淳一	娘十ニケ月　4 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
139	中原　淳一	娘十ニケ月　5 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
140	中原　淳一	娘十ニケ月　6 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
141	中原　淳一	娘十ニケ月　7 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
142	中原　淳一	娘十ニケ月　9 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
143	中原　淳一	娘十ニケ月　10 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
144	中原　淳一	娘十ニケ月　11 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
145	中原　淳一	娘十ニケ月　12 月	昭和 14 年頃(c.1939)	木版・紙
146	中原　淳一	便箋「野薔薇」の表紙	昭和 13 年(1938)	便箋
147	中原　淳一	ランドゲーム『少女の友』の付録	昭和 15 年(1940)	カード(51 枚)
148	中原　淳一	『少女の友』の表紙	昭和 14 年(1939)1～12 月号	雑誌［実業之日本社］

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
149	中原　淳一	『それいゆ』の表紙	昭和 29 年(1954)春号	雑誌[ひまわり社]
150	中原　淳一	『それいゆ』の表紙	昭和 29 年(1954)秋号	雑誌[ひまわり社]
151	中原　淳一	『それいゆ』の表紙	昭和 29 年(1954)冬号	雑誌[ひまわり社]
152	中原　淳一	絵葉書	昭和期	絵葉書(5 枚)
Ⅲ	抒情絵画の諸相			
－風俗画の流れ				
153	伊藤　小坡	船あそび	大正～昭和期	絹本・彩色
154	鏑木　清方	茶屋娘	大正～昭和期	絹本・彩色
155	鏑木　清方	唐人お吉	昭和 11 年(1936)	紙本・彩色
156	北野　恒富	鷺娘	大正 15 年頃(c.1926)	紙本・彩色
157	伊藤　晴雨	浴後の涼み	大正～昭和期	絹本・彩色
158	池田　輝方	汐干狩二美人図	明治後期～大正期	絹本・彩色
159	池田　蕉園	七夕	明治後期～大正期	絹本・彩色
160	島 成園	夏の女	大正～昭和期	絹本・彩色
161	木谷　千種	湯あがり	昭和期	絹本・彩色
162	中村大三郎	明眸	制作年不詳	絹本・彩色
163	伊東　深水	蚊張美人図	大正～昭和期	絹本・彩色
164	小早川　清	唐人お吉	大正～昭和期	絹本・彩色
165	小早川　清	ささやき	大正～昭和期	絹本・彩色
166	小早川　清	水谷八重子像	大正～昭和期	絹本・彩色
－新版画				
167	高橋　弘明	ヌード	昭和 3 年(1928)	木版・紙
168	鏑木　清方	おさん『近松全集挿絵版画集』	大正 12 年(1923)	木版・紙
169	橋口　五葉	化粧	大正 7 年(1918)	木版・紙
170	北野　恒富	鷺娘	大正 14 年(1925)	木版・紙
171	山村　耕花	踊り	大正 13 年(1924)	木版・紙
172	伊東　深水	新美人十二姿 おしろい	大正 12 年(1923)	木版・紙
173	伊東　深水	昭和美人風俗 浅春	昭和 6 年(1931)	木版・紙
174	小早川　清	唐人お吉	大正～昭和期	木版・紙
175	小早川　清	近代時世粧ノ内 一　ほろ酔ひ	昭和 5 年(1930)	木版・紙
176	小早川　清	近代時世粧ノ内 六　口紅	昭和 6 年(1931)	木版・紙
177	鳥居　言人	朝寝髪	昭和 8 年(1933)	木版・紙
178	瀧　秋方	近代麗人画譜・港街の日本娘	昭和 11 年(1936)	木版・紙
－創作版画				
179	戸張　孤雁	温泉宿	大正 8 年(1919)	木版・紙
180	山本 鼎	漁夫『明星』の挿絵	明治 37 年(1904)	木版・紙
181	恩地孝四郎	ヌード	大正初期	木版・紙
－様々な現れ				
182	石川　寅治	踊り	昭和 9 年(1934)	木版・紙
183	鏑木　清方	モダン美女	昭和期	石版・紙
184	青木　繁(画) 山本　鼎(木版)	鏽斧	明治 37 年(1904)	木版、紙
185	山村　耕花	犬を連れた洋装婦人	明治 45 年～昭和 17 年頃 (c.1912-1942)	紙本・彩色
186	山村　耕花	「京洛異変」の挿絵原画	明治 45 年～昭和 17 年頃 (c.1912-1942)	墨・紙
187	川西 英	サロメ	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	布・金彩

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
188	川西 英	楽器を持つ女	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
189	川西 英	美人画(三味線を持つ女性)	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
190	川西 英	美人画(後姿の女性)	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
191	川西 英	美人画(頬杖をつく女性)	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
192	川西 英	美人画(裸婦)	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
193	川西 英	短冊	昭和 3 年～40 年頃(c.1928-1965)	紙本・彩色
194	東郷 青児	モダン娘	大正～昭和期	木版・紙
195	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』-1	昭和 21 年(1946)	木版・紙
196	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』-2	昭和 21 年(1946)	木版・紙
197	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』-3	昭和 21 年(1946)	木版・紙
198	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』-4	昭和 21 年(1946)	木版・紙
199	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』-5	昭和 21 年(1946)	木版・紙
200	大倉 九節	高橋掬太郎著『花かんざし』装丁	昭和 21 年(1946)	書籍[文礼社]
Ⅳ 挿絵画家の活躍				
201	小村 雪岱	『両国』の挿絵	大正 11 年～昭和 15 年頃 (c.1922-1940)	墨、鉛筆・紙(2 枚)
202	小村 雪岱	矢田挿雲著「忠臣蔵」『報知新聞』の挿絵	昭和 10 年～15 年(1935-1940)	墨・紙(14 枚)
203	小村 雪岱	お傳地獄	昭和 13 年頃(c.1938)	木版・紙
204	小村 雪岱	夜雨	昭和 13 年頃(c.1938)	木版・紙
205	小村 雪岱	邦枝完二著『お傳地獄』の装丁	昭和 11 年(1936)	書籍[新日本社]
206	小村 雪岱	邦枝完二著『浮名三味線 色娘(おせん)』の装丁	昭和 11 年(1936)	書籍[新日本社]
207	岩田 専太郎	吹雪の女	昭和期	紙本・彩色
208	岩田 専太郎	近代美人	昭和期	紙本・彩色
209	岩田 専太郎	昭和美人図	昭和期	紙本・彩色
210	岩田 専太郎	『苦楽』の挿絵	大正 13 年～昭和 3 年頃 (c.1924-1928)	インク・紙(3 枚)
211	岩田 専太郎	大佛次郎著「天狗廻状」『報知新聞』の挿絵	昭和 7 年(1932)	墨・紙
212	岩田 専太郎	『講談の泉』の表紙絵	昭和 24 年(1949)	彩色・紙
213	岩田 専太郎	小島政二郎著「甘肌」ポスターの原画	昭和 29 年頃(c.1954)	彩色・紙
214	岩田 専太郎	司馬遼太郎著「竜馬がゆく」『産経新聞(夕刊)』の挿絵	昭和 37 年(1962)	墨・紙(10 枚)
215	岩田 専太郎	大佛次郎著『赤穂浪士』(上・中・下巻)の装丁	昭和 4 年(1929)	書籍[改造社]
216	岩田 専太郎	小島政二郎著「甘肌」のポスター	昭和 29 年(1954)	ポスター
217	岩田 専太郎	慰問袋	昭和 10 年代後半(c.1940-1944)	絵葉書
218	伊藤 幾久造	巴御前	大正～昭和期	絹本・彩色
219	伊藤 幾久造	八幡太郎義家	大正～昭和期	絹本・彩色
220	伊藤 幾久造	辰巳の女	大正～昭和期	紙本・彩色
221	伊藤 幾久造	舞妓	大正～昭和期	紙本・彩色
222	伊藤 幾久造	「曼陀羅富士」『名古屋新聞』の挿絵	大正 13 年～昭和 17 年頃 (c.1924-1942)	インク・紙
223	志村 立美	ゆかた	昭和 25～40 年頃(c.1950-1965)	紙本・彩色
224	志村 立美	『酉の市、女』の挿絵	ー	彩色・紙
225	志村 立美	舟橋聖一著「男」『大阪毎日新聞』の挿絵	昭和 16 年(1941)	インク・紙(10 枚)

NO	作家名	作品名	制作時期	材質技法等
226	志村　立美	角田喜久雄著「恋慕奉行」『大阪新聞』の挿絵	昭和 33 年(1958)	インク・紙
227	志村　立美	二人の瞳(美空ひばり)	制作年不詳	リトグラフ・紙
228	志村　立美	林不忘著『丹下左膳』の装丁	昭和 10 年(1935)	書籍[新潮社]
V	楽譜、絵葉書など			
229	岡本　一平	創作中の漱石先生	制作年不詳	紙本・彩色
230	岡本　一平	『週刊朝日』の画稿	大正～昭和期	インク・紙
231	宇崎　純一	絵葉書	大正～昭和期	絵葉書(7 枚)
232	小林　かいち	灰色のカーテン	大正 15 年～昭和 15 年頃(c.1926－1940)	木版・絵葉書(4 枚)
233	小林　かいち	二号街の女	大正 15 年～昭和 15 年頃(c.1926－1940)	木版・絵葉書(4 枚)
234	加藤　まさを	『童謡小曲　中山晋平曲　第 11 集』の表紙	昭和 4 年(1929)	木版・紙
235	加藤　まさを	『童謡小曲　中山晋平曲　第 7 集』の表紙	昭和 6 年(1931)	木版・紙
236	加藤　まさを	脚光の女	昭和初期	絵葉書(4 枚)
237	須藤　しげる	少女数へ歌双六	昭和 4 年(1929)	双六
238	ひろし	楽譜『花嫁人形』の表紙	昭和 3 年(1928)	オフセット・紙
239	ひろし	楽譜『忘れな草』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
240	ひろし	楽譜『アラビアの唄』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
241	ひろし	楽譜『ハレルヤ』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
242	ひろし	楽譜『A さんと B さん』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
243	ひろし	楽譜『君よ知るや南の国』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
244	ひろし	楽譜『歓楽の夜曲』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
245	ひろし	楽譜『紅屋の娘』の表紙	昭和 4 年(1929)	オフセット・紙
246	太宰　敦夫	近代女性美	昭和 7 年(1932)	絵葉書(16 枚)
247	作者不詳	『コドモアサヒ』	大正 13 年(1924)8 月号	雑誌[朝日新聞社]
248	作者不詳	馬上の源義経	制作年不詳	染織(着物)

日本画にみる世界遺産の旅

●会期　平成21年10月17日（土）～11月23日（月・祝）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：ＮＨＫ水戸放送局
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　280×225㎜　118頁
編集：茨城県天心記念五浦美術館
発行：茨城県天心記念五浦美術館
●入場者数　27,707 人
●観覧料　一般 600（500）円／高大生 400（300）円
小中生 200（150）円
※（　）内は 20 名以上の団体料金
●出品点数　日本画 50 点
●内容解説

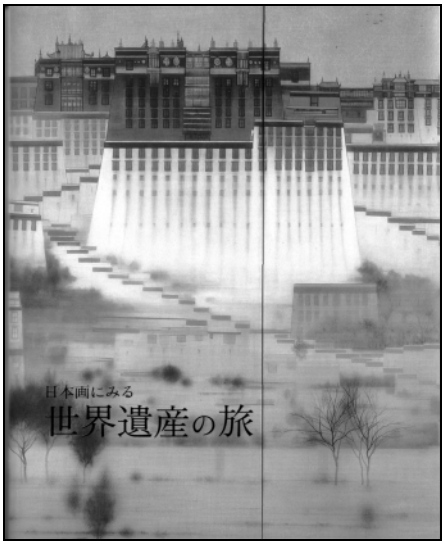
世界遺産とは，世界遺産条約（1972年）に基づきユネスコによって登録されている遺跡や建造物群，モニュメントなどの文化遺産と，貴重な生態系や自然景観などの自然遺産，さらにこの二つを併せ持つ複合遺産からなっており，人類にとって普遍的な価値を持ち，国家や民族を越えて未来世代に引き継いでいくべき文化と自然の遺産を指している。日本は1992年に同条約を締結し，現在では法隆寺地域の仏教建造物や屋久島をはじめ13件が登録されている。

世界遺産の中には，那智滝や厳島神社をはじめ，京都や奈良など古くから信仰の場として，あるいは名所として親しまれ，絵画のテーマとなって描かれてきた場所が含まれている。また，中国の蘇州や黄山，大同石仏のように，明治以降多くの画家が訪れ，異国の風景・文化に心を寄せた画家たちによる作品も多い。一方で，世界遺産となることで取り上げられるようになったものもあって，近年では多くの画家が様々な世界遺産を描いている。

ところで，日本における文化財保護政策は岡倉天心の尽力によって制定された古社寺保存法を嚆矢としている。日本美術院の画家が世界遺産を数多く描いていることは，天心の精神が今なお生き続けていることの現れともいえよう。

この展覧会では，近代日本画における風景表現の展開を追うのみならず，世界遺産という人類共通の文化・自然の財産と対峙したときの画家の息づかいと眼差しを感じながら，画家が捉えた世界遺産を旅することで，その豊かな文化的背景をも見つめ直す機会とする。

●担当　中田智則（主任学芸員）
●関連イベント
学芸員によるギャラリートーク
担当　中田智則（主任学芸員）
日時　11月３日（火・祝）午後１時30分～午後2時30分
11月14日（土）午後１時30分～午後2時30分
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ
●関連記事
・日本画に見る―世界遺産の旅展　新しい風景画のテーマ（中田智則）平成 21 年 10 月 21 日（水）【新美術新聞】
・世界遺産の日本画展　五浦美術館
平成 21 年 10 月 17 日（土）【茨城新聞】
・日本画で旅する　50 点の世界遺産
平成 21 年 10 月 19 日（月）【読売新聞】
・日本画家の描く世界遺産　企画展　県天心記念五浦美術館で　平成 21 年 10 月 24 日（土）【毎日新聞】
・県天心記念五浦美術館　日本画にみる世界遺産の旅　魂揺さぶる 50 作品
平成 21 年 10 月 26 日（月）【茨城新聞】
・県天心記念五浦美術館　描かれた世界遺産　日本画 50 点を紹介　平成 21 年 10 月 27 日（火）【朝日新聞】



図録

ポスター（B2・B1）

チラシ（A4）

・いばらき春秋（智）
平成 21 年 11 月 2 日（月）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から①　田渕俊夫「清水寺」（中田智則）
平成 21 年 11 月 12 日（木）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から②　松村公嗣「布達拉宮」（中田智則）
平成 21 年 11 月 13 日（金）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から③　地から宙 グランド・キャニオン（中田智則）
平成 21 年 11 月 14 日（土）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から④　竹内栖鳳「ベニスの月」（中田智則）
平成 21 年 11 月 15 日（日）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から⑤　稗田一穂「渺々熊野」（中田智則）
平成 21 年 11 月 16 日（月）【茨城新聞】
・「日本画にみる世界遺産の旅」を見る（風間　晶）
平成 21 年 11 月 28 日（土）【常陽新聞】

●関連放送
・「みんなの教育」平成 21 年 10 月 10 日（土）【茨城放送】
・「スクーピーレポート」
平成21年10月21日（木）【茨城放送】
・「地上波デジタル（茨城県内のニュース）」
平成 21 年 11 月 12 日（木）【NHK 水戸支局】

出品作品一覧

Ⅰ　日本

No	作者名	作品タイトル	制作年	技法材質	形状	サイズ	初出展覧会	所蔵家
1	小野　竹喬	五箇山の雨季	大正 5 年	絹本・彩色	額装	97.0×81.0		笠岡市立竹喬美術館
2	池田　遙邨	日光山	昭和 11 年	絹本・彩色	屏風四曲一隻	180.3×352.8	文展招待展	姫路市立美術館
3	池田　遙邨	銀砂灘	昭和 30 年	紙本・彩色	額装	141×206	第 11 回日展	日本芸術院
4	宇田　荻邨	清水寺	昭和 32 年	紙本・彩色	額装	90.0×120.0	第 13 回日展	京都市美術館
5	佐藤　太清	緑雨	昭和 45 年	紙本・彩色	額装	173.0×210.0	第2回改組日展	東京国立近代美術館
6	佐藤　太清	東大寺暮雪	昭和 50 年	紙本・彩色	額装	221.0×167.0	第7回改組日展	広島県立美術館
7	加藤　東一	伝承	昭和 57 年	紙本・彩色	額装	166.1×210.2	第 14 回改組日展	愛知県美術館
8	稗田　一穂	渺々熊野	平成 11 年	紙本・彩色	額装	146.5×300.0	第 26 回創画展	明星大学
9	福王寺　法林	日光	昭和 41 年	紙本・彩色	額装	273.0×348.0	第 51 回再興院展	日光東照宮宝物館
10	毛利　武彦	内陣	昭和 60 年	紙本・彩色	額装	207.0×191.0	第 12 回創画展	国立国際美術館
11	関口　雄揮	早春	平成 12 年	紙本・彩色	屏風六曲一双	176.0×906.0		箱根・芦ノ湖 成川美術館
12	麻田　鷹司	赭那智	昭和 35 年	紙本・彩色	額装	167.0×81.0	第1回個展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
13	麻田　鷹司	金閣雪景図	昭和 44 年	紙本・彩色	額装	72.4×90.3	第3回個展	サイトウミート
14	後藤　純男	残照	昭和 47 年	紙本・彩色	額装	180.0×227.0	第 57 回再興院展	東京国立近代美術館
15	平山　郁夫	月華厳島	平成 5 年	紙本・彩色	額装	172.0×384.0	第 78 回再興院展	個人
16	伊藤　彭耳	雲中供養仏	昭和 57 年	紙本・彩色	額装	148.0×73.0		個人
17	田渕　俊夫	清水寺	昭和 54 年	紙本・彩色	額装	92.0×103.0	第 34 回春の院展	個人
18	田渕　俊夫	献燈	昭和 63 年	紙本・彩色	額装	162.8×130.8	広島・ヒロシマ・HIROSHIMA	広島市現代美術館
19	箱崎　睦昌	塔二題－平安－	平成4年	紙本・彩色	額装	290.0×190.0	第9回横の会展	個人
20	箱崎　睦昌	塔二題－鎌倉－	平成4年	紙本・彩色	額装	290.0×190.0	第9回横の会展	個人
21	手塚　雄二	創星那智	平成 14 年	紙本・彩色	額装	173.0×280.0	第 87 回再興院展	国立大学法人電気通信大学
22	菅原　健彦	縄文杉	平成 17 年	紙本・墨画, 彩色	パネル装	500×266	META展 2005	作家
Ⅱ	**アジア**							
23	吉岡　堅二	雲崗大露仏	昭和 55 年	紙本・彩色	額装	180.5×180.7	第7回創画展	個人
24	塩出　英雄	園亭	昭和 55 年	紙本・彩色	屏風二曲一隻	174.0×242.4	第 65 回再興院展	ふくやま美術館
25	福王寺　法林	白光のヒマラヤ	平成3年	紙本・彩色	額装	200.0×728.0	第 76 回再興院展	茨城県近代美術館

No	作者名	作品タイトル	制作年	技法材質	形状	サイズ	初出展覧会	所蔵家
26	山中　雪人	雲岡仏	昭和61年	紙本・彩色	額装	167.5×215.0	第71回再興院展	広島県立美術館
27	平川　敏夫	黄山松雨	昭和57年	紙本・墨画	屏風四曲一隻	166.0×360.0	第9回創画展	愛知県美術館
28	平川　敏夫	紫禁城	昭和57年	紙本・彩色	額装	66.9×133.6	中国を描く現代日本画展	豊橋市美術博物館
29	下保　昭	山紫風白	昭和59年	紙本・彩色	パネル装	168.0×747.6	水墨黄山　下保昭展	富山県水墨美術館
30	平山　郁夫	敦煌三危	昭和60年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.0×364.5	第70回再興院展	箱根・芦ノ湖　成川美術館
31	平山　郁夫	敦煌鳴沙	昭和60年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.0×364.5	第70回再興院展	箱根・芦ノ湖　成川美術館
32	田渕　俊夫	八達嶺	昭和55年	紙本・彩色	額装	97.0×130.0	朝日美術展	個人
33	松村　公嗣	布達拉宮	平成12年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.2×363.9	第85回再興院展	作家
34	手塚　雄二	嶺	平成2年	紙本・彩色	額装	206.5×178.0	第75回再興院展	黒部峡谷　セレネ美術館
35	吉川　弘	アジャンタ全景	平成2年	紙本・彩色	額装	181.8×227.3	第17回創画展	個人
Ⅲ	**アメリカ**							
36	松本　哲男	地から宙　グランド・キャニオン	平成5年	紙本・彩色	額装	222.0×800.0	第78回再興院展	宇都宮美術館
37	松本　哲男	睨　イグアスの滝	平成9年	紙本・彩色	額装	220.0×600.0	第82回再興院展	個人
Ⅳ	**ヨーロッパ**							
38	竹内　栖鳳	ベニスの月	明治37年	紙本・墨画	軸装	220×174.5		髙島屋史料館
39	速水　御舟	ポンテ・ベッキョ	昭和6年	紙本・彩色	額装	42.3×66.3	速水御舟遊欧小作展	(財)北野美術館
40	加藤　栄三	フィレンツェの夜明け	昭和43年	紙本・彩色	額装	162.1×227.3	第11回新日展	個人
41	松尾　敏男	サン・マルコ驟雨	平成16年	紙本・彩色	額装	193×368	第89回再興院展	個人
42	下田　義寛	ノートルダム・ド・パリ	平成11年	絹本・彩色	額装	165.0×304.0	第84回再興院展	個人
43	八田　哲	夜のカテドラル	平成元年	紙本・彩色	額装	207.0×230.0	第6回横の会展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
44	野村　義照	暮色	昭和58年	紙本・彩色	額装	215.0×170.0	第68回再興院展	北澤美術館
45	津田　一江	川音	平成17年	紙本・彩色	額装	304.4×181.8	第32回創画展	練馬区立美術館
46	高橋　天山	清夜	平成11年	紙本・彩色	額装	224.5×179.5	第84回再興院展	茨城県近代美術館
47	北田　克己	祝祭の街	平成10年	紙本・彩色	額装	214.0×169.0	第83回再興院展	個人
48	柳沢　正人	刻を見る丘	平成7年	紙本・彩色	額装	167.0×684.0		箱根・芦ノ湖　成川美術館
49	清水　由朗	望楼	平成20年	紙本・彩色	額装	171×364	第93回再興院展	作家
50	岩永　てるみ	パリの休日	平成20年	紙本・彩色	額装	100×100	第63回春の院展	個人

土とともに、水とともに――――
田園画人 小林巣居人の世界

●会期　平成22年1月2日（土）～2月14日（日）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：ＮＨＫ水戸放送局
助成：財団法人地域創造
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　280×227㎜　150頁
編集発行　茨城県天心記念五浦美術館
●入場者数　16,041人
●観覧料　一般600（500）円／高大生400（300）円
小中生200（150）円
※（　）内は20名以上の団体料金
●出品点数　日本画63点　資料32点
●内容解説

明治30年(1897)，茨城県稲敷郡長戸村(現在の龍ヶ崎市)に生まれた小林巣居人は，小川芋銭を師と仰ぎ，芋銭の紹介で平福百穂に師事して日本画を学びました。はじめ横山大観や芋銭らが参加していた再興院展に出品しますが，昭和12年(1937)に他の院友と共に脱退，「自由拘束なき新興清新なる芸術」を目指して新興美術院を結成し，その中心的存在として活躍するなど，生涯在野精神を貫きました。

巣居人は，終生，幼い頃より親しんだふるさと茨城の田園や水郷，そこに育まれる小さな命を原風景とした作品を描き続けています。何気ない自然の一コマを独自の感性で描いたそれらの作品は，豊かな詩情にあふれており，画家の大地に対する敬意と限りない愛情が感じられます。

本展では，上下巻合わせて長さ33メートルを越える画巻の大作「土機光象」をはじめとする新興美術院展出品作など63点を中心に，スケッチなどもあわせて展示し巣居人の画業を回顧すると共に，その芸術の魅力を紹介します。

●担当　稲葉睦子（主任学芸員）
●関連イベント

座談会「父，巣居人を語る」
講師　小林登氏（東京大学名誉教授：小児科学・医学博士）
小倉なつみ氏（小原流華道教授）
小林恒岳氏（新興美術院常任理事・日本画家）
日時　平成22年1月23日[土]　午後1時30分～2時30分
会場　講堂

初心者のための日本画講座「はりこの虎を描こう」
講師　小林恒岳氏（新興美術院常任理事・日本画家）
日時　平成22年1月30日（土）～31日（日）
各日午前10時～午後4時
会場　講座室

学芸員によるギャラリートーク
担当　稲葉睦子（主任学芸員）
日時　１月10日（日）午後１時30分～午後2時30分
２月６日（土）午後１時30分～午後2時30分
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ

●関連記事

・小林巣居人の世界
平成21年12月21日（月）【両毛新聞】
・巣居人 30年ぶり回顧展
平成22年１月１日（金）【読売新聞】
・画巻の大作も　小林巣居人展
平成22年１月３日（日）【毎日新聞】
・「田園画人」巣居人　30年ぶり大回顧展
平成22年１月５日（火）【朝日新聞】
・「小林巣居人の世界」展に寄せて 父、巣居人の思い出
平成22年１月11日（月）【新美術新聞】

図録

ポスター　Ｂ２

チラシ　Ａ４

・夢心地誘う実感表現
平成22年１月20日（水）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　１
愛情豊かで繊細な感覚
平成22年１月22日（金）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　２
ヨシキリの命のドラマ
平成22年１月23日（土）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　３
自然界を対比的に描く
平成22年１月24日（日）【茨城新聞】
田園画人　小林巣居人の世界　４
・自然と家族愛した父　画人・巣居人の子語る
平成22年１月24日（日）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　４
水郷に訪れた春の息吹
平成22年１月25日（月）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　５
動物への優しさにじむ
平成22年１月26日（火）【茨城新聞】

●関連放送

・「とれたてワイドいばらき」
・「みんなの教育」
平成22年１月２日（土）【茨城放送】
・「アートシーン」
平成22年１月31日（日）【ＮＨＫ教育テレビ】
・「スクーピーレポート」
平成22年１月15日（金）【茨城放送】
・「ニュースワイド茨城」
平成22年１月15日（金）【ＮＨＫデジタル】
・「おもしろ美術館」
平成22年１月29日（金）【FMいわき】
・「ニュース」
平成22年２月10日（水）【ＮＨＫデジタル】
・「とれたてワイドいばらき」
・「ニュースワイド茨城」
平成22年２月12日（金）【ＮＨＫデジタル】

出品作品一覧

No.	作品名	制作年	材質･技法･形状	寸法(縦×横 ㎝)	初出展覧会	所蔵先
1	庭先	大正中期	紙本･墨画淡彩･額装	47.8×88.8		
2	山羊	大正中期	紙本･墨画淡彩･額装	47.8×88.8		
3	田園の四季	大正12年(1923)	紙本･墨画淡彩･巻子(四巻)	春:22.0×486.0 夏:22.0×461.0 秋:22.0×465.0 冬:22.0×519.0		茨城県近代美術館
4	粟	昭和2年(1927)	絹本･彩色･軸装	157.8×68.5	第3回茨城美術展	武蔵野美術大学美術資料図書館
5	唐黍	昭和5年頃(c.1930)	絹本･彩色･軸装	145.8×50.9		葵美術
6	白鷺	昭和初期	絹本･彩色･屏風二曲一隻	164.0×161.0		
7	青嵐	昭和14年(1939)	紙本･彩色･屏風六曲一隻	156.0×358.0	第2回新興美術院展	
8	岩	昭和15年(1940)	紙本･彩色･屏風二曲三隻	各177.4×207.4	第3回新興美術院展	茨城県近代美術館
9	川烏	昭和15年(1940)	絹本･彩色･軸装	61.0×72.7	新興美術院小品展	
10	山女	昭和15年頃(c.1940)	絹本･墨画淡彩･軸装	49.0×56.8		
11	豆と蜻蛉	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	50.8×59.2		
12	菜の花	昭和15年頃(c.1940)	絹本･彩色･軸装	44.5×52.3		
13	炎暑	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	44.4×50.8		
14	秋菜	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	44.2×52.4		
15	海蟹	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	36.0×48.0		
16	冬田	昭和15年頃(c.1940)	絹本･彩色･軸装	142.0×51.0		
17	雨気画冊	昭和16年(1941)	紙本･墨画彩色･画帳(14図)	各23.5×35.0		
18	豊秋帳 土子光象	昭和16年(1941)	紙本･彩色･画帳(15図)	各32.3×45.5		
19	梟	昭和17年頃(c.1942)	紙本･墨画淡彩･軸装	124.7×30.0		
20	春象	昭和17年頃(c.1942)	絹本･彩色･軸装	47.0×50.5		
21	土機光象	昭和18年(1943)	紙本･墨画彩色･巻子(二巻)	上巻:55.0×1660.2 下巻:55.0×1662.1	第6回新興美術院展	茨城県近代美術館

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
22	土機画冊	昭和18年(1943)	紙本・墨画彩色・画帳(15図)	各33.8×22.5		
23	春機	昭和18年頃(c.1943)	紙本・墨画彩色・軸装	42.2×53.2		
24	四季の譜	昭和19年頃(c.1944)	紙本・墨画淡彩・軸装(四幅)	萌春:136.7×33.8 盛夏:132.5×32.6 晩秋:132.5×32.5 冬の森:132.7×32.5		
25	游魚(あいそ)	昭和19年頃(c.1944)	紙本・墨画彩色・額装	35.0×49.5		
26	千鳥	昭和19年頃(c.1944)	絹本・彩色・額装	41.5×49.5		葵美術
27	鮎	昭和24年頃(c.1949)	絹本・彩色・額装	84.9×57.6		
28	よだかの星	昭和26年(1951)	紙本・彩色・屏風二曲一双	各172.4×255.2	第1回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
29	岩上雲	昭和26年(1951)	絹本・彩色・軸装	119.0×87.9	再興新興美術院秋季展	財団法人常陽藝文センター
30	蓬莱山	昭和27年(1952)	紙本・墨画淡彩・軸装	45.0×63.5		
31	水辺画巻	昭和29年(1954)	絹本・彩色・額装	56.0×1750.0	第4回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
32	渓氷	昭和32年(1957)	絹本・彩色・額装	148.3×117.5	第7回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
33	雪解ける	昭和33年(1958)	絹本・彩色・額装	49.4×70.8	小林巣居人日本画展	
34	水辺夏	昭和35年(1960)	絹本・彩色・額装	130.0×114.5	第10回記念再興新興美術院展	茨城県近代美術館
35	づくの宿	昭和36年(1961)	絹本・彩色・額装	78.0×52.0	第4回小林巣居人日本画展	茨城県近代美術館
36	湖	昭和37年(1962)	絹本・彩色・額装	133.0×174.0	第12回再興新興美術院展	石岡市民会館
37	明るい夜	昭和38年(1963)	紙本・彩色・額装	116.7×90.8	第6回小林巣居人日本画展	
38	春の水	昭和39年(1964)	紙本・彩色・額装	44.5×65.0	第7回小林巣居人日本画展	葵美術
39	雪	昭和40年(1965)	紙本・彩色・額装	53.4×72.8	第8回小林巣居人日本画展	葵美術
40	しぐれる日	昭和40年(1965)	紙本・彩色・額装	80.0×117.0	第8回小林巣居人日本画展	
41	水辺暁	昭和42年(1967)	紙本・彩色・額装	151.5×121.0	第17回再興新興美術院展	東京国立近代美術館
42	暁	昭和42年頃(c.1967)	紙本・彩色・額装	60.0×72.0		取手市
43	水辺の若草	昭和43年(1968)	紙本・彩色・額装	121.2×151.6	第18回再興新興美術院展	
44	水辺の若草	昭和43年頃(c.1968)	紙本・彩色・額装	44.5×60.2		
45	水辺の雨	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	121.1×151.8	第19回再興新興美術院展	
46	月夜の湖	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	117.0×90.2	第10回小林巣居人日本画展	
47	ゆき	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	72.5×53.2	第10回小林巣居人日本画展	
48	氷とける	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	52.5×72.3	第10回小林巣居人日本画展	
49	春泥(1)	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	104.9×149.9	第20回再興新興美術院展	
50	春泥(2)	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	105.5×150.9	第20回再興新興美術院展	
51	秋出水	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	93.4×116.0	秋季新興展	関東つくば銀行石岡支店
52	雪流れる	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	151.0×105.0	第21回再興新興美術院展	武蔵野美術大学美術資料図書館
53	氷とける	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	151.5×106.0	第21回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
54	明るい夜	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	116.8×80.5	秋季新興展	茨城県近代美術館
55	雨ふる	昭和47年(1972)	紙本・彩色・額装	152.0×107.0	第22回再興新興美術院展	東京都現代美術館
56	風にとぶカラス	昭和47年(1972)	紙本・彩色・額装	116.1×79.6	秋季新興展	
57	きりはれる	昭和48年(1973)	紙本・彩色・額装	121.6×182.4	第23回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
58	明るい夜と潮だまり	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	161.5×110.5	第25回再興新興美術院展	
59	なぐ	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	116.1×79.5	秋季新興展	
60	水辺揺	昭和51年(1976)	紙本・彩色・額装	151.5×106.0	第26回再興新興美術院展	
61	水辺暖	昭和52年(1977)	紙本・彩色・屏風二曲一隻	130.0×161.3	第27回再興新興美術院展	
62	春雪	昭和52年(1977)	紙本・彩色・額装	72.5×99.5	秋季新興展	
63	水辺晨月	昭和53年(1978)	紙本・彩色・額装	90.0×116.0	第28回再興新興美術院展	

No.	作品名	制作年	材質･技法･形状	寸法(縦×横 cm)
S-1	コオロギ（写生）	昭和5年（1930）	紙本･彩色	21.0×18.0
S-2	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×18.0
S-3	ナス（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×18.0
S-4	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	18.0×25.0
S-5	行々子、芦（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×36.0
S-6	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	18.0×25.0
S-7	芦（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画	25.0×18.0
S-8	ナス（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×36.0
S-9	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本・墨画	25.0×18.0
S-10	カワセミ（写生）	昭和13年頃（c.1938）	紙本･鉛筆､彩色	25.0×265.0
S-11	海の岩・太海（写生）	昭和15年（1940）	紙本･彩色（二図）	各15.3×23.0
S-12	岩上雲（小下図）	昭和26年（1951）	紙本･彩色	26.5×19.0
S-13	溪氷（小下図）	昭和32年（1957）	紙本･彩色（二図）	各22.5×17.5
S-14	水辺夏（小下図）	昭和35年（1960）	紙本･彩色	29.5×22.5
S-15	枯蓮（画稿）	不詳	紙本･彩色	29.5×22.5
S-16	海鹿島（写生）	不詳	紙本･墨画	9.8×16.3
S-17	海の岩（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.7×16.2
S-18	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画	9.7×16.2
S-19	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画	9.9×16.3
S-20	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.9×16.3
S-21	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.7×16.2
S-22	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画	9.0×15.8
S-23	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×15.8
S-24	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.6×15.8
S-25	風景（写生）	不詳	紙本･墨画	10.0×16.0
S-26	朝雲（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.8×16.0
S-27	月明（写生）	不詳	紙本･彩色	10.0×16.3
S-28	ケヤキ（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	16.3×9.2
S-29	枯蓮（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	16.3×9.2
S-30	鬼蓮（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×16.0
S-31	嵐の後の菊（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×16.6
S-32	振袖	昭和19年（1944）	絹地･墨画彩色、刺繍	丈 162.5 × 裄 61.0

1　企画展

万葉集 1250 年記念
万葉のこころを描く

●会期　平成21年４月25日（土）～６月７日（日）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館／読売新聞社
共催：奈良県立万葉文化館／「万葉のこころを未来へ」推進委員会
後援：平城遷都1300年記念事業協会
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　269×229㎜　144頁
発行：読売新聞社
●入場者数　22,544人
●観覧料　一般600（500）円／高大生400（300）円
小中生200（150）円
※（　）内は20名以上の団体料金
●出品点数　日本画　50点，スケッチ等15点
●内容解説

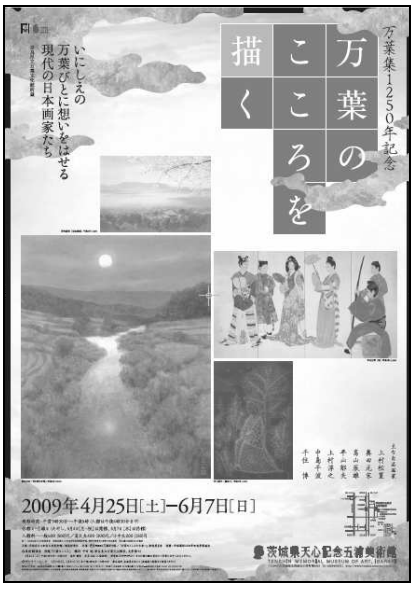
『万葉集』は五世紀頃から八世紀にかけて詠まれた詩歌の原点であり，我が国最古の和歌集である。大伴家持によって編纂されたと言われるこの歌集は全20巻，4500首余りの歌が集められ，古代に生きた万葉びとの豊かな人間性や宇宙観などが鮮やかに表現されている。

今年は，大伴家持が『万葉集』の最終歌を詠んだ759年から数えて1250年という節目の年にあたる。これを記念して，日本人の心のルーツである万葉文化の素晴らしさを広く全国に発信する「万葉のこころを未来へ」推進委員会と共催し，万葉集1250年記念「万葉のこころを描く」展を開催する。

本展では，奈良県立万葉文化館所蔵品から万葉歌をテーマに描かれた日本画50点を精選し，「第1章 自然」，「第2章 旅」，「第3章 恋」，「第4章 万葉びとと暮らし」の4つの章に分けて一堂に展示し，現代の画家たちが万葉の世界に想いをはせて描いた様々な表現を紹介する。描かれた日本画と古代の歌とのコラボレーションは時を超え，現代の私たちの新たな共感を呼ぶことだろう。

●担当　武石洋（首席学芸主事）
●関連イベント
ギャラリートーク
担当　武石洋（首席学芸主事）
日時　５月３日（日）　午後１時30分～
５月24日（日）　午後１時30分～
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ
美術講演会
演題　「万葉のこころ」
講師　中西　進（奈良県立万葉文化館長，文学博士）
日時　平成21年4月25日（土）午後2時30分～3時30分
会場　講堂
●関連記事
・万葉歌テーマ　日本画ずらり
平成21年４月17日（金）【読売新聞】
・万葉集1250年記念で企画展
平成21年４月21日（火）【朝日新聞】
・万葉に思いをはせ日本画の企画展
平成21年４月24日（金）【毎日新聞】
・万葉・日本画展　開幕
平成21年４月26日（日）【読売新聞】
・絵と歌が奏でる世界
平成21年４月26日（日）【茨城新聞】
・「万葉のこころ」展開幕
平成21年４月25日（土）【読売新聞（夕刊）】

図録



ポスター（B2）

チラシ（A4）

・日本画で描く　古代の思い
平成21年４月27日（月）【読売新聞】
・万葉集1250年記念　万葉の心を描く
『月刊美術』（５月号）
・現代日本画家が描くいにしえの想い
『書道界』（通巻234号）
・万葉の心を描く
平成21年４月23日（木）【両毛新聞】
・ぎゃらりいモール
平成21年４月28日（火）【読売新聞（夕刊）】
・万葉の心を描く（上）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月８日（金）【読売新聞】
平成21年５月18日（月）【福島民友】
・万葉の心を描く（中）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月９日（金）【読売新聞】
平成21年５月19日（火）【福島民友】
・万葉の心を描く（下）霊峰の光景に古代の宇宙観
平成21年５月９日（金）【読売新聞】
平成21年５月20日（水）【福島民友】
・感じる古代人の息遣い
平成21年５月13日（水）【茨城新聞】
・万葉の宴と響きあう日本画
平成21年５月15日（金）【常陽新聞】
・「万葉のこころを描く」1万人突破
平成21年５月17日（日）【読売新聞】

●関連放送

・「夕刊ホット」
平成21年５月13日（水）【茨城放送】
・「スクーピーレポート」
平成21年５月９日（土）【茨城放送】
・地上波デジタル（茨城県内のニュース）
平成21年４月28日（火）【ＮＨＫデジタル】

出品作品一覧

自然

No.	作家名	作品名	制作年		大きさ(cm)	素材・形状
1	上村　松篁	春愁	平成10年	1998	92.0×65.0	紙本着色・額装
2	奥田　元宋	明日香川夕照	平成８年	1996	116.7×90.9	紙本着色・額装
3	工藤　甲人	炎立つ	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
4	松尾　敏男	鶴鳴きわたる	平成８年	1996	171.3×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
5	後藤　純男	新雪大和	平成10年	1998	121.5×173.0	紙本着色・額装
6	那波多目　功一	訪春	平成９年	1997	171.3×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
7	由里本　出	雪の大原	平成９年	1997	145.5×112.1	紙本着色・額装
8	大矢　十四彦	野遊	平成９年	1997	193.9×130.3	紙本着色・額装
9	下田　義寛	朝霧	平成11年	1999	145.5×112.1	紙本着色・額装
10	田渕　俊夫	はぎの頃	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
11	木下　育應	野路爽晨	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
12	中野　嘉之	水辺と千鳥	平成11年	1999	97.0×162.1	紙本着色・額装
13	辰巳　寛	月出づ	平成８年	1996	145.5×145.5	紙本着色・額装
14	林　功	万葉懐風	平成11年	1999	112.1×145.5	紙本着色・額装
15	東　俊行	月の影	平成10年	1998	130.3×162.1	紙本着色・額装
16	手塚　雄二	月読	平成11年	1999	104.8×116.7	紙本着色・額装
17	清水　操	立夏	平成９年	1997	145.5×97.0	紙本着色・額装
18	森田　りえ子	撫子	平成11年	1999	180.0×190.0	紙本着色・屏風二曲一隻
19	川﨑　麻児	月夜	平成11年	1999	90.9×116.7	紙本着色・額装

旅

20	川﨑　鈴彦	有磯海	平成11年	1999	167.0×221.0	紙本着色・額装
21	下保　昭	対馬の海	平成10年	1998	97.0×162.1	紙本着色・額装
22	中野　弘彦	吉野繚乱ー時雨	平成９年	1997	145.5×112.1	紙本着色・額装
23	岩澤　重夫	輝峰	平成11年	1999	193.9×112.1	紙本着色・額装
24	川﨑　春彦	鳥の声	平成10年	1998	112.1×162.1	紙本着色・額装
25	小山　硬	熟田津ー額田王	平成11年	1999	162.1×112.1	紙本着色・額装

No.	作家名	作品名	制作年		大きさ(cm)	素材・形状
26	坪内　滄明	奈良春霞	平成９年	1997	80.3×116.7	紙本着色・額装
27	平松　礼二	路ー湖愁	平成９年	1997	112.1×162.1	紙本着色・額装
28	絹谷　幸二	大和国原	平成９年	1997	130.3×162.1	紙本着色・額装
29	土屋　禮一	滝	平成９年	1997	130.0×145.5	紙本着色・額装
30	後藤　順一	幻馬	平成10年	1998	130.3×162.1	紙本着色・額装
31	村上　裕二	瀬	平成11年	1999	110.0×122.0	紙本着色・額装
恋						
32	関口　正男	安見児	平成９年	1997	142.0×90.0	紙本着色・額装
33	平山　郁夫	額田王	平成９年	1997	116.7×80.3	紙本着色・額装
34	上村　淳之	佐保の詩	平成10年	1998	171.2×363.6	紙本着色・屏風六曲一隻
35	井上　稔	斑鳩夕景	平成８年	1996	97.0×130.3	紙本着色・額装
36	牧　進	薄暮	平成10年	1998	116.7×80.3	紙本着色・額装
37	福井　爽人	筑波嶺に雪かも	平成９年	1997	97.0×145.5	紙本着色・額装
38	川島　睦郎	菖蒲草	平成10年	1998	97.0×145.5	紙本着色・額装
39	倉島　重友	夏野	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
40	畠中　光享	春柳葛城山	平成８年	1996	130.3×97.0	絹本着色・額装
41	大野　俊明	清隅の	平成８年	1996	145.5×112.1	紙本着色・額装
42	千住　博	ウォーターフォール	平成11年	1999	130.3×162.1	紙本着色・額装
「万葉びと」と暮らし						
43	髙山　辰雄	弭の音	平成９年	1997	180.0×130.0	紙本着色・額装
44	大森　運夫	貧窮問答歌	平成10年	1998	145.5×145.5	紙本着色・額装
45	松岡　政信	あぶら火の	平成10年	1998	112.1×145.5	絹本着色・額装
46	烏頭尾　精	明日香風	平成９年	1997	112.1×162.1	紙本着色・額装
47	中島　千波	散りのまがひ	平成９年	1997	162.1×112.1	紙本着色・額装
48	青山　亘幹	刻	平成８年	1996	171.3×290.8	紙本着色・屏風四曲一隻
49	西田　俊英	秋山迷ひぬる	平成10年	1998	145.5×112.1	紙本着色・額装
50	岸野　圭作	いはしろ	平成８年	1996	112.1×145.5	紙本着色・額装
素描						
51	川﨑　鈴彦	富山湾雨晴海岸（写生）	平成11年	1999	32.5×41.3	紙、ペン、パステル・額装
52	松尾　敏男	鶴鳴きわたる（素描）	平成８年	1996	45.5×50.0	紙、鉛筆、色鉛筆・額装
53	岩澤　重夫	輝峰（素描）	平成11年	1999	22.7×15.8	紙、鉛筆、顔彩、岩絵具、金泥・額装
54	烏頭尾　精	小下絵　明日香風	平成９年	1997	23.5×34.5	紙、鉛筆、水彩・額装
55	小山　硬	熱田津額田王（小下絵）	平成11年	1999	38.4×27.0	紙、鉛筆、墨、水彩、銀泥・額装
56	井上　稔	素描　斑鳩夕景	平成８年	1996	27.0×38,0	紙、鉛筆、水彩・額装
57	牧　進	紫式部（素描）	平成10年	1998	68.0×67.8	紙、墨、顔彩・額装
58	由里本　出	雪の大原（スケッチ）	平成９年	1997	32.8×49.5	紙、墨、水彩、パステル・額装
59	大矢　十四彦	天平の女（素描）	平成９年	1997	54.7×37.6	紙　鉛筆　水彩　色鉛筆・額装
60	下田　義寛	牡鹿（素描）	平成11年	1999	24.0×16.0	紙、鉛筆・額装
61	田渕　俊夫	はぎの頃（小下絵）	平成10年	1998	49.4×38.2	紙、鉛筆、パステル、顔彩・額装
62	絹谷　幸二	素描　大和国原	平成９年	1997	31.3×40.7	紙、鉛筆、オイルパステル・額装
63	林　功	万葉懐風（小下絵）	平成11年	1999	32.0×41.0	紙、鉛筆、水彩・額装
64	東　俊行	淀の月（素描）	平成10年	1998	32.7×49.7	紙、木炭、パステル・額装
65	森田　りえ子	万葉娘子	平成11年	1999	64.0×38.0	紙、鉛筆、色鉛筆、水彩・額装

日本画にみる世界遺産の旅

●会期　平成21年10月17日（土）～11月23日（月・祝）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：ＮＨＫ水戸放送局
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　280×225㎜　118頁
編集：茨城県天心記念五浦美術館
発行：茨城県天心記念五浦美術館
●入場者数　27,707 人
●観覧料　一般 600（500）円／高大生 400（300）円
小中生 200（150）円
※（　）内は 20 名以上の団体料金
●出品点数　日本画 50 点
●内容解説

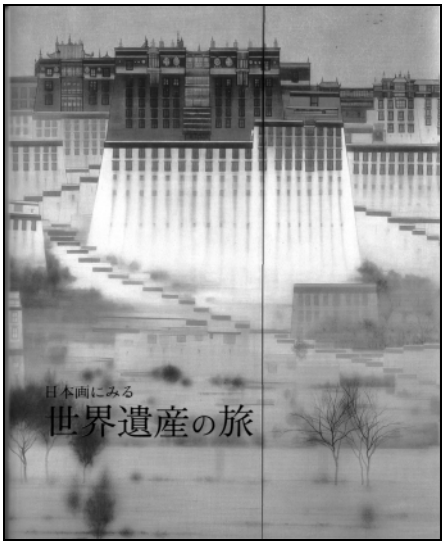
世界遺産とは，世界遺産条約（1972年）に基づきユネスコによって登録されている遺跡や建造物群，モニュメントなどの文化遺産と，貴重な生態系や自然景観などの自然遺産，さらにこの二つを併せ持つ複合遺産からなっており，人類にとって普遍的な価値を持ち，国家や民族を越えて未来世代に引き継いでいくべき文化と自然の遺産を指している。日本は1992年に同条約を締結し，現在では法隆寺地域の仏教建造物や屋久島をはじめ13件が登録されている。

世界遺産の中には，那智滝や厳島神社をはじめ，京都や奈良など古くから信仰の場として，あるいは名所として親しまれ，絵画のテーマとなって描かれてきた場所が含まれている。また，中国の蘇州や黄山，大同石仏のように，明治以降多くの画家が訪れ，異国の風景・文化に心を寄せた画家たちによる作品も多い。一方で，世界遺産となることで取り上げられるようになったものもあって，近年では多くの画家が様々な世界遺産を描いている。

ところで，日本における文化財保護政策は岡倉天心の尽力によって制定された古社寺保存法を嚆矢としている。日本美術院の画家が世界遺産を数多く描いていることは，天心の精神が今なお生き続けていることの現れともいえよう。

この展覧会では，近代日本画における風景表現の展開を追うのみならず，世界遺産という人類共通の文化・自然の財産と対峙したときの画家の息づかいと眼差しを感じながら，画家が捉えた世界遺産を旅することで，その豊かな文化的背景をも見つめ直す機会とする。

●担当　中田智則（主任学芸員）
●関連イベント
学芸員によるギャラリートーク
担当　中田智則（主任学芸員）
日時　11月３日（火・祝）午後１時30分～午後2時30分
11月14日（土）午後１時30分～午後2時30分
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ
●関連記事
・日本画に見る―世界遺産の旅展　新しい風景画のテーマ（中田智則）平成 21 年 10 月 21 日（水）【新美術新聞】
・世界遺産の日本画展　五浦美術館
平成 21 年 10 月 17 日（土）【茨城新聞】
・日本画で旅する　50 点の世界遺産
平成 21 年 10 月 19 日（月）【読売新聞】
・日本画家の描く世界遺産　企画展　県天心記念五浦美術館で　平成 21 年 10 月 24 日（土）【毎日新聞】
・県天心記念五浦美術館　日本画にみる世界遺産の旅　魂揺さぶる 50 作品
平成 21 年 10 月 26 日（月）【茨城新聞】
・県天心記念五浦美術館　描かれた世界遺産　日本画 50 点を紹介　平成 21 年 10 月 27 日（火）【朝日新聞】



図録

ポスター（B2・B1）

チラシ（A4）

・いばらき春秋（智）
平成 21 年 11 月 2 日（月）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から①　田渕俊夫「清水寺」（中田智則）
平成 21 年 11 月 12 日（木）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から②　松村公嗣「布達拉宮」（中田智則）
平成 21 年 11 月 13 日（金）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から③　地から宙 グランド・キャニオン（中田智則）
平成 21 年 11 月 14 日（土）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から④　竹内栖鳳「ベニスの月」（中田智則）
平成 21 年 11 月 15 日（日）【茨城新聞】
・日本画にみる世界遺産の旅　県天心記念五浦美術館企画展から⑤　稗田一穂「渺々熊野」（中田智則）
平成 21 年 11 月 16 日（月）【茨城新聞】
・「日本画にみる世界遺産の旅」を見る（風間　晶）
平成 21 年 11 月 28 日（土）【常陽新聞】

●関連放送
・「みんなの教育」平成 21 年 10 月 10 日（土）【茨城放送】
・「スクーピーレポート」
平成21年10月21日（木）【茨城放送】
・「地上波デジタル（茨城県内のニュース）」
平成 21 年 11 月 12 日（木）【NHK 水戸支局】

出品作品一覧

Ⅰ　日本

No	作者名	作品タイトル	制作年	技法材質	形状	サイズ	初出展覧会	所蔵家
1	小野　竹喬	五箇山の雨季	大正 5 年	絹本・彩色	額装	97.0×81.0		笠岡市立竹喬美術館
2	池田　遙邨	日光山	昭和 11 年	絹本・彩色	屏風四曲一隻	180.3×352.8	文展招待展	姫路市立美術館
3	池田　遙邨	銀砂灘	昭和 30 年	紙本・彩色	額装	141×206	第 11 回日展	日本芸術院
4	宇田　荻邨	清水寺	昭和 32 年	紙本・彩色	額装	90.0×120.0	第 13 回日展	京都市美術館
5	佐藤　太清	緑雨	昭和 45 年	紙本・彩色	額装	173.0×210.0	第2回改組日展	東京国立近代美術館
6	佐藤　太清	東大寺暮雪	昭和 50 年	紙本・彩色	額装	221.0×167.0	第7回改組日展	広島県立美術館
7	加藤　東一	伝承	昭和 57 年	紙本・彩色	額装	166.1×210.2	第 14 回改組日展	愛知県美術館
8	稗田　一穂	渺々熊野	平成 11 年	紙本・彩色	額装	146.5×300.0	第 26 回創画展	明星大学
9	福王寺　法林	日光	昭和 41 年	紙本・彩色	額装	273.0×348.0	第 51 回再興院展	日光東照宮宝物館
10	毛利　武彦	内陣	昭和 60 年	紙本・彩色	額装	207.0×191.0	第 12 回創画展	国立国際美術館
11	関口　雄揮	早春	平成 12 年	紙本・彩色	屏風六曲一双	176.0×906.0		箱根・芦ノ湖 成川美術館
12	麻田　鷹司	赭那智	昭和 35 年	紙本・彩色	額装	167.0×81.0	第1回個展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
13	麻田　鷹司	金閣雪景図	昭和 44 年	紙本・彩色	額装	72.4×90.3	第3回個展	サイトウミート
14	後藤　純男	残照	昭和 47 年	紙本・彩色	額装	180.0×227.0	第 57 回再興院展	東京国立近代美術館
15	平山　郁夫	月華厳島	平成 5 年	紙本・彩色	額装	172.0×384.0	第 78 回再興院展	個人
16	伊藤　彭耳	雲中供養仏	昭和 57 年	紙本・彩色	額装	148.0×73.0		個人
17	田渕　俊夫	清水寺	昭和 54 年	紙本・彩色	額装	92.0×103.0	第 34 回春の院展	個人
18	田渕　俊夫	献燈	昭和 63 年	紙本・彩色	額装	162.8×130.8	広島・ヒロシマ・HIROSHIMA	広島市現代美術館
19	箱崎　睦昌	塔二題－平安－	平成4年	紙本・彩色	額装	290.0×190.0	第9回横の会展	個人
20	箱崎　睦昌	塔二題－鎌倉－	平成4年	紙本・彩色	額装	290.0×190.0	第9回横の会展	個人
21	手塚　雄二	創星那智	平成 14 年	紙本・彩色	額装	173.0×280.0	第 87 回再興院展	国立大学法人電気通信大学
22	菅原　健彦	縄文杉	平成 17 年	紙本・墨画, 彩色	パネル装	500×266	META展 2005	作家
Ⅱ	**アジア**							
23	吉岡　堅二	雲崗大露仏	昭和 55 年	紙本・彩色	額装	180.5×180.7	第7回創画展	個人
24	塩出　英雄	園亭	昭和 55 年	紙本・彩色	屏風二曲一隻	174.0×242.4	第 65 回再興院展	ふくやま美術館
25	福王寺　法林	白光のヒマラヤ	平成3年	紙本・彩色	額装	200.0×728.0	第 76 回再興院展	茨城県近代美術館

No	作者名	作品タイトル	制作年	技法材質	形状	サイズ	初出展覧会	所蔵家
26	山中　雪人	雲岡仏	昭和61年	紙本・彩色	額装	167.5×215.0	第71回再興院展	広島県立美術館
27	平川　敏夫	黄山松雨	昭和57年	紙本・墨画	屏風四曲一隻	166.0×360.0	第9回創画展	愛知県美術館
28	平川　敏夫	紫禁城	昭和57年	紙本・彩色	額装	66.9×133.6	中国を描く現代日本画展	豊橋市美術博物館
29	下保　昭	山紫風白	昭和59年	紙本・彩色	パネル装	168.0×747.6	水墨黄山　下保昭展	富山県水墨美術館
30	平山　郁夫	敦煌三危	昭和60年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.0×364.5	第70回再興院展	箱根・芦ノ湖　成川美術館
31	平山　郁夫	敦煌鳴沙	昭和60年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.0×364.5	第70回再興院展	箱根・芦ノ湖　成川美術館
32	田渕　俊夫	八達嶺	昭和55年	紙本・彩色	額装	97.0×130.0	朝日美術展	個人
33	松村　公嗣	布達拉宮	平成12年	紙本・彩色	屏風四曲一隻	171.2×363.9	第85回再興院展	作家
34	手塚　雄二	嶺	平成2年	紙本・彩色	額装	206.5×178.0	第75回再興院展	黒部峡谷　セレネ美術館
35	吉川　弘	アジャンタ全景	平成2年	紙本・彩色	額装	181.8×227.3	第17回創画展	個人
Ⅲ	**アメリカ**							
36	松本　哲男	地から宙　グランド・キャニオン	平成5年	紙本・彩色	額装	222.0×800.0	第78回再興院展	宇都宮美術館
37	松本　哲男	睨　イグアスの滝	平成9年	紙本・彩色	額装	220.0×600.0	第82回再興院展	個人
Ⅳ	**ヨーロッパ**							
38	竹内　栖鳳	ベニスの月	明治37年	紙本・墨画	軸装	220×174.5		髙島屋史料館
39	速水　御舟	ポンテ・ベッキョ	昭和6年	紙本・彩色	額装	42.3×66.3	速水御舟遊欧小作展	(財)北野美術館
40	加藤　栄三	フィレンツェの夜明け	昭和43年	紙本・彩色	額装	162.1×227.3	第11回新日展	個人
41	松尾　敏男	サン・マルコ驟雨	平成16年	紙本・彩色	額装	193×368	第89回再興院展	個人
42	下田　義寛	ノートルダム・ド・パリ	平成11年	絹本・彩色	額装	165.0×304.0	第84回再興院展	個人
43	八田　哲	夜のカテドラル	平成元年	紙本・彩色	額装	207.0×230.0	第6回横の会展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
44	野村　義照	暮色	昭和58年	紙本・彩色	額装	215.0×170.0	第68回再興院展	北澤美術館
45	津田　一江	川音	平成17年	紙本・彩色	額装	304.4×181.8	第32回創画展	練馬区立美術館
46	高橋　天山	清夜	平成11年	紙本・彩色	額装	224.5×179.5	第84回再興院展	茨城県近代美術館
47	北田　克己	祝祭の街	平成10年	紙本・彩色	額装	214.0×169.0	第83回再興院展	個人
48	柳沢　正人	刻を見る丘	平成7年	紙本・彩色	額装	167.0×684.0		箱根・芦ノ湖　成川美術館
49	清水　由朗	望楼	平成20年	紙本・彩色	額装	171×364	第93回再興院展	作家
50	岩永　てるみ	パリの休日	平成20年	紙本・彩色	額装	100×100	第63回春の院展	個人

土とともに、水とともに――――
田園画人 小林巣居人の世界

●会期　平成22年1月2日（土）～2月14日（日）
●主催等　主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：ＮＨＫ水戸放送局
助成：財団法人地域創造
●ポスター　B2，B3
●チラシ　A4
●図録　280×227㎜　150頁
編集発行　茨城県天心記念五浦美術館
●入場者数　16,041人
●観覧料　一般600（500）円／高大生400（300）円
小中生200（150）円
※（　）内は20名以上の団体料金
●出品点数　日本画63点　資料32点
●内容解説

明治30年(1897)，茨城県稲敷郡長戸村(現在の龍ヶ崎市)に生まれた小林巣居人は，小川芋銭を師と仰ぎ，芋銭の紹介で平福百穂に師事して日本画を学びました。はじめ横山大観や芋銭らが参加していた再興院展に出品しますが，昭和12年(1937)に他の院友と共に脱退，「自由拘束なき新興清新なる芸術」を目指して新興美術院を結成し，その中心的存在として活躍するなど，生涯在野精神を貫きました。

巣居人は，終生，幼い頃より親しんだふるさと茨城の田園や水郷，そこに育まれる小さな命を原風景とした作品を描き続けています。何気ない自然の一コマを独自の感性で描いたそれらの作品は，豊かな詩情にあふれており，画家の大地に対する敬意と限りない愛情が感じられます。

本展では，上下巻合わせて長さ33メートルを越える画巻の大作「土機光象」をはじめとする新興美術院展出品作など63点を中心に，スケッチなどもあわせて展示し巣居人の画業を回顧すると共に，その芸術の魅力を紹介します。

●担当　稲葉睦子（主任学芸員）
●関連イベント

座談会「父，巣居人を語る」
講師　小林登氏（東京大学名誉教授：小児科学・医学博士）
小倉なつみ氏（小原流華道教授）
小林恒岳氏（新興美術院常任理事・日本画家）
日時　平成22年1月23日[土]　午後1時30分～2時30分
会場　講堂

初心者のための日本画講座「はりこの虎を描こう」
講師　小林恒岳氏（新興美術院常任理事・日本画家）
日時　平成22年1月30日（土）～31日（日）
各日午前10時～午後4時
会場　講座室

学芸員によるギャラリートーク
担当　稲葉睦子（主任学芸員）
日時　１月10日（日）午後１時30分～午後2時30分
２月６日（土）午後１時30分～午後2時30分
会場　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ

●関連記事

・小林巣居人の世界
平成21年12月21日（月）【両毛新聞】
・巣居人 30年ぶり回顧展
平成22年１月１日（金）【読売新聞】
・画巻の大作も　小林巣居人展
平成22年１月３日（日）【毎日新聞】
・「田園画人」巣居人　30年ぶり大回顧展
平成22年１月５日（火）【朝日新聞】
・「小林巣居人の世界」展に寄せて 父、巣居人の思い出
平成22年１月11日（月）【新美術新聞】

図録

ポスター　Ｂ２

チラシ　Ａ４

・夢心地誘う実感表現
平成22年１月20日（水）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　１
愛情豊かで繊細な感覚
平成22年１月22日（金）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　２
ヨシキリの命のドラマ
平成22年１月23日（土）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　３
自然界を対比的に描く
平成22年１月24日（日）【茨城新聞】
田園画人　小林巣居人の世界　４
・自然と家族愛した父　画人・巣居人の子語る
平成22年１月24日（日）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　４
水郷に訪れた春の息吹
平成22年１月25日（月）【茨城新聞】
・田園画人　小林巣居人の世界　５
動物への優しさにじむ
平成22年１月26日（火）【茨城新聞】

●関連放送

・「とれたてワイドいばらき」
・「みんなの教育」
平成22年１月２日（土）【茨城放送】
・「アートシーン」
平成22年１月31日（日）【ＮＨＫ教育テレビ】
・「スクーピーレポート」
平成22年１月15日（金）【茨城放送】
・「ニュースワイド茨城」
平成22年１月15日（金）【ＮＨＫデジタル】
・「おもしろ美術館」
平成22年１月29日（金）【FMいわき】
・「ニュース」
平成22年２月10日（水）【ＮＨＫデジタル】
・「とれたてワイドいばらき」
・「ニュースワイド茨城」
平成22年２月12日（金）【ＮＨＫデジタル】

出品作品一覧

No.	作品名	制作年	材質･技法･形状	寸法(縦×横 ㎝)	初出展覧会	所蔵先
1	庭先	大正中期	紙本･墨画淡彩･額装	47.8×88.8		
2	山羊	大正中期	紙本･墨画淡彩･額装	47.8×88.8		
3	田園の四季	大正12年(1923)	紙本･墨画淡彩･巻子(四巻)	春:22.0×486.0 夏:22.0×461.0 秋:22.0×465.0 冬:22.0×519.0		茨城県近代美術館
4	粟	昭和2年(1927)	絹本･彩色･軸装	157.8×68.5	第3回茨城美術展	武蔵野美術大学美術資料図書館
5	唐黍	昭和5年頃(c.1930)	絹本･彩色･軸装	145.8×50.9		葵美術
6	白鷺	昭和初期	絹本･彩色･屏風二曲一隻	164.0×161.0		
7	青嵐	昭和14年(1939)	紙本･彩色･屏風六曲一隻	156.0×358.0	第2回新興美術院展	
8	岩	昭和15年(1940)	紙本･彩色･屏風二曲三隻	各177.4×207.4	第3回新興美術院展	茨城県近代美術館
9	川烏	昭和15年(1940)	絹本･彩色･軸装	61.0×72.7	新興美術院小品展	
10	山女	昭和15年頃(c.1940)	絹本･墨画淡彩･軸装	49.0×56.8		
11	豆と蜻蛉	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	50.8×59.2		
12	菜の花	昭和15年頃(c.1940)	絹本･彩色･軸装	44.5×52.3		
13	炎暑	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	44.4×50.8		
14	秋菜	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	44.2×52.4		
15	海蟹	昭和15年頃(c.1940)	紙本･彩色･軸装	36.0×48.0		
16	冬田	昭和15年頃(c.1940)	絹本･彩色･軸装	142.0×51.0		
17	雨気画冊	昭和16年(1941)	紙本･墨画彩色･画帳(14図)	各23.5×35.0		
18	豊秋帳 土子光象	昭和16年(1941)	紙本･彩色･画帳(15図)	各32.3×45.5		
19	梟	昭和17年頃(c.1942)	紙本･墨画淡彩･軸装	124.7×30.0		
20	春象	昭和17年頃(c.1942)	絹本･彩色･軸装	47.0×50.5		
21	土機光象	昭和18年(1943)	紙本･墨画彩色･巻子(二巻)	上巻:55.0×1660.2 下巻:55.0×1662.1	第6回新興美術院展	茨城県近代美術館

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
22	土機画冊	昭和18年(1943)	紙本・墨画彩色・画帳(15図)	各33.8×22.5		
23	春機	昭和18年頃(c.1943)	紙本・墨画彩色・軸装	42.2×53.2		
24	四季の譜	昭和19年頃(c.1944)	紙本・墨画淡彩・軸装(四幅)	萌春:136.7×33.8 盛夏:132.5×32.6 晩秋:132.5×32.5 冬の森:132.7×32.5		
25	游魚(あいそ)	昭和19年頃(c.1944)	紙本・墨画彩色・額装	35.0×49.5		
26	千鳥	昭和19年頃(c.1944)	絹本・彩色・額装	41.5×49.5		葵美術
27	鮎	昭和24年頃(c.1949)	絹本・彩色・額装	84.9×57.6		
28	よだかの星	昭和26年(1951)	紙本・彩色・屏風二曲一双	各172.4×255.2	第1回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
29	岩上雲	昭和26年(1951)	絹本・彩色・軸装	119.0×87.9	再興新興美術院秋季展	財団法人常陽藝文センター
30	蓬莱山	昭和27年(1952)	紙本・墨画淡彩・軸装	45.0×63.5		
31	水辺画巻	昭和29年(1954)	絹本・彩色・額装	56.0×1750.0	第4回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
32	渓氷	昭和32年(1957)	絹本・彩色・額装	148.3×117.5	第7回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
33	雪解ける	昭和33年(1958)	絹本・彩色・額装	49.4×70.8	小林巣居人日本画展	
34	水辺夏	昭和35年(1960)	絹本・彩色・額装	130.0×114.5	第10回記念再興新興美術院展	茨城県近代美術館
35	づくの宿	昭和36年(1961)	絹本・彩色・額装	78.0×52.0	第4回小林巣居人日本画展	茨城県近代美術館
36	湖	昭和37年(1962)	絹本・彩色・額装	133.0×174.0	第12回再興新興美術院展	石岡市民会館
37	明るい夜	昭和38年(1963)	紙本・彩色・額装	116.7×90.8	第6回小林巣居人日本画展	
38	春の水	昭和39年(1964)	紙本・彩色・額装	44.5×65.0	第7回小林巣居人日本画展	葵美術
39	雪	昭和40年(1965)	紙本・彩色・額装	53.4×72.8	第8回小林巣居人日本画展	葵美術
40	しぐれる日	昭和40年(1965)	紙本・彩色・額装	80.0×117.0	第8回小林巣居人日本画展	
41	水辺暁	昭和42年(1967)	紙本・彩色・額装	151.5×121.0	第17回再興新興美術院展	東京国立近代美術館
42	暁	昭和42年頃(c.1967)	紙本・彩色・額装	60.0×72.0		取手市
43	水辺の若草	昭和43年(1968)	紙本・彩色・額装	121.2×151.6	第18回再興新興美術院展	
44	水辺の若草	昭和43年頃(c.1968)	紙本・彩色・額装	44.5×60.2		
45	水辺の雨	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	121.1×151.8	第19回再興新興美術院展	
46	月夜の湖	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	117.0×90.2	第10回小林巣居人日本画展	
47	ゆき	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	72.5×53.2	第10回小林巣居人日本画展	
48	氷とける	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	52.5×72.3	第10回小林巣居人日本画展	
49	春泥(1)	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	104.9×149.9	第20回再興新興美術院展	
50	春泥(2)	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	105.5×150.9	第20回再興新興美術院展	
51	秋出水	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	93.4×116.0	秋季新興展	関東つくば銀行石岡支店
52	雪流れる	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	151.0×105.0	第21回再興新興美術院展	武蔵野美術大学美術資料図書館
53	氷とける	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	151.5×106.0	第21回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
54	明るい夜	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	116.8×80.5	秋季新興展	茨城県近代美術館
55	雨ふる	昭和47年(1972)	紙本・彩色・額装	152.0×107.0	第22回再興新興美術院展	東京都現代美術館
56	風にとぶカラス	昭和47年(1972)	紙本・彩色・額装	116.1×79.6	秋季新興展	
57	きりはれる	昭和48年(1973)	紙本・彩色・額装	121.6×182.4	第23回再興新興美術院展	茨城県近代美術館
58	明るい夜と潮だまり	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	161.5×110.5	第25回再興新興美術院展	
59	なぐ	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	116.1×79.5	秋季新興展	
60	水辺揺	昭和51年(1976)	紙本・彩色・額装	151.5×106.0	第26回再興新興美術院展	
61	水辺暖	昭和52年(1977)	紙本・彩色・屏風二曲一隻	130.0×161.3	第27回再興新興美術院展	
62	春雪	昭和52年(1977)	紙本・彩色・額装	72.5×99.5	秋季新興展	
63	水辺晨月	昭和53年(1978)	紙本・彩色・額装	90.0×116.0	第28回再興新興美術院展	

No.	作品名	制作年	材質･技法･形状	寸法(縦×横 cm)
S-1	コオロギ（写生）	昭和5年（1930）	紙本･彩色	21.0×18.0
S-2	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×18.0
S-3	ナス（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×18.0
S-4	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	18.0×25.0
S-5	行々子、芦（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×36.0
S-6	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	18.0×25.0
S-7	芦（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画	25.0×18.0
S-8	ナス（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本･墨画彩色	25.0×36.0
S-9	行々子（写生）　「行々子」写生帳より	昭和13年（1938）	紙本・墨画	25.0×18.0
S-10	カワセミ（写生）	昭和13年頃（c.1938）	紙本･鉛筆､彩色	25.0×265.0
S-11	海の岩・太海（写生）	昭和15年（1940）	紙本･彩色（二図）	各15.3×23.0
S-12	岩上雲（小下図）	昭和26年（1951）	紙本･彩色	26.5×19.0
S-13	溪氷（小下図）	昭和32年（1957）	紙本･彩色（二図）	各22.5×17.5
S-14	水辺夏（小下図）	昭和35年（1960）	紙本･彩色	29.5×22.5
S-15	枯蓮（画稿）	不詳	紙本･彩色	29.5×22.5
S-16	海鹿島（写生）	不詳	紙本･墨画	9.8×16.3
S-17	海の岩（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.7×16.2
S-18	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画	9.7×16.2
S-19	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画	9.9×16.3
S-20	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.9×16.3
S-21	風浪（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.7×16.2
S-22	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画	9.0×15.8
S-23	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×15.8
S-24	水郷の風景（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.6×15.8
S-25	風景（写生）	不詳	紙本･墨画	10.0×16.0
S-26	朝雲（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	9.8×16.0
S-27	月明（写生）	不詳	紙本･彩色	10.0×16.3
S-28	ケヤキ（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	16.3×9.2
S-29	枯蓮（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	16.3×9.2
S-30	鬼蓮（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×16.0
S-31	嵐の後の菊（写生）	不詳	紙本･墨画彩色	10.1×16.6
S-32	振袖	昭和19年（1944）	絹地･墨画彩色、刺繍	丈 162.5 × 裄 61.0

２　所蔵品展

●概要

茨城県近代美術館所蔵作品から日本画を中心に，その都度テーマを設けて選び出し展示室Ａで所蔵品展として年４回，作家に焦点を当てた特集展示を１回実施した。

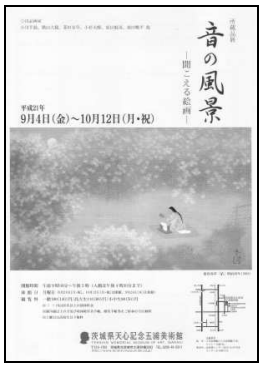
●主催　茨城県天心記念五浦美術館

●会期及びテーマ，入場者数

会期	テーマ	人数
4/2（木）－4/19（日）	特集展示「宮本武蔵」を描く−石井鶴三挿絵原画の世界	5,089
6/12（金）－7/5（日）	水彩画の魅力	9,080
9/4（金）－10/12（月・祝）	音の風景ー聞こえる絵画	15,375
11/28（土）－12/23（水・祝）	子どものいる情景	8,501
H22/2/19（金）－3/31（水）	現代日本画家の情熱ー天心記念茨城賞の画家を中心に	13,290
	合計	51,335

●観覧料　一般 180(140)円／高大生 110(80)円／小中生 80(50)円
※（　）内は 20 名以上の団体料金
※満 70 歳以上の方及び身体障害者手帳，療育手帳等をお持ちの方は無料
※土曜日は高校生以下無料

●所蔵品展チラシ



特集展示　「宮本武蔵」を描く−石井鶴三挿絵原画の世界　平成 21 年 4 月 2 日（木）～4 月 19 日（日）

彫刻家として近代日本彫刻史に大きな足跡を残した石井鶴三(1887-1973)は，油彩，水彩，版画，挿絵，漫画，著述など様々な分野で活躍し，なかでも挿絵においては大正後期より充実した仕事ぶりを見せ，いくつもの名作を生み出した。鶴三の挿絵は単なる小説の添え物にとどまらず，単独でも鑑賞に耐える創造性や芸術性を備えていたことから，当時，挿絵というジャンルの価値や地位を向上させることになった。鶴三は，昭和 10 年から 14 年まで東京・大阪の朝日新聞で連載された吉川英治の「宮本武蔵」の後半部分にあたる「空の巻」「二天の巻」「円明の巻」の挿絵を担当した。剣を通して己を磨く青年武蔵や，武蔵にまつわる人間模様を，簡潔な線描や墨の濃淡を駆使して巧みに描き出した鶴三の挿絵は，賞賛と好評をもって迎えられた。本展では「空の巻」「二天の巻」「円明の巻」より 67 点を選び，鶴三の挿絵原画の魅力を紹介した。

●出品目録

NO	作品名	掲載日	大きさ(㎝)
1	『空の巻』導母の杖(1)	昭和13年1月30日(日)	22.3×33.3
2	『空の巻』導母の杖(2)	昭和13年2月1日(火)	22.3×33.3
3	『空の巻』導母の杖(3)	昭和13年2月2日(水)	22.3×33.3
4	『空の巻』導母の杖(4)	昭和13年2月3日(木)	22.3×33.3
5	『空の巻』導母の杖(5)	昭和13年2月4日(金)	22.3×33.3
6	『空の巻』導母の杖(8)	昭和13年2月8日(火)	22.3×33.3

NO	作品名	掲載日	大きさ(㎝)
35	『二天の巻』八重垣紅葉(6)	昭和13年10月27日(木)	22.3×33.3
36	『二天の巻』八重垣紅葉(7)	昭和13年10月28日(金)	22.3×33.3
37	『二天の巻』栄達の門(1)	昭和13年12月20日(火)	22.3×33.3
38	『二天の巻』栄達の門(2)	昭和13年12月21日(水)	22.3×33.3
39	『二天の巻』栄達の門(3)	昭和13年12月22日(木)	22.3×33.3
40	『二天の巻』栄達の門(4)	昭和13年12月23日(金)	22.3×33.3

NO	作品名	掲載日	大きさ(㎝)
7	『空の巻』一夕の恋(6)	昭和13年2月15日(火)	22.3×33.3
8	『空の巻』土匪来(1)	昭和13年5月7日(土)	22.3×33.3
9	『空の巻』土匪来(2)	昭和13年5月8日(日)	22.3×33.3
10	『空の巻』土匪来(3)	昭和13年5月10日(火)	22.3×33.3
11	『空の巻』土匪来(4)	昭和13年5月11日(水)	22.3×33.3
12	『空の巻』土匪来(5)	昭和13年5月12日(木)	22.3×33.3
13	『空の巻』征夷(1)	昭和13年5月13日(金)	22.3×33.3
14	『空の巻』征夷(2)	昭和13年5月14日(土)	22.3×33.3
15	『空の巻』征夷(3)	昭和13年5月15日(日)	22.3×33.3
16	『空の巻』征夷(4)	昭和13年5月17日(火)	22.3×33.3
17	『空の巻』征夷(5)	昭和13年5月18日(水)	22.3×33.3
18	『空の巻』征夷(6)	昭和13年5月19日(木)	22.3×33.3
19	『空の巻』征夷(7)	昭和13年5月20日(金)	22.3×33.3
20	『二天の巻』四賢一灯(1)	昭和13年9月6日(火)	22.3×33.3
21	『二天の巻』四賢一灯(2)	昭和13年9月7日(水)	22.3×33.3
22	『二天の巻』四賢一灯(3)	昭和13年9月8日(木)	22.3×33.3
23	『二天の巻』四賢一灯(4)	昭和13年9月9日(金)	22.3×33.3
24	『二天の巻』四賢一灯(5)	昭和13年9月10日(土)	22.3×33.3
25	『二天の巻』四賢一灯(7)	昭和13年9月13日(火)	22.3×33.3
26	『二天の巻』撥(1)	昭和13年10月9日(日)	22.3×33.3
27	『二天の巻』撥(2)	昭和13年10月11日(火)	22.3×33.3
28	『二天の巻』撥(3)	昭和13年10月12日(水)	22.3×33.3
29	『二天の巻』撥(4)	昭和13年10月13日(木)	22.3×33.3
30	『二天の巻』八重垣紅葉(1)	昭和13年10月21日(金)	22.3×33.3
31	『二天の巻』八重垣紅葉(2)	昭和13年10月22日(土)	22.3×33.3
32	『二天の巻』八重垣紅葉(3)	昭和13年10月23日(日)	22.3×33.3
33	『二天の巻』八重垣紅葉(4)	昭和13年10月25日(火)	22.3×33.3
34	『二天の巻』八重垣紅葉(5)	昭和13年10月26日(水)	22.3×33.3

NO	作品名	掲載日	大きさ(㎝)
41	『二天の巻』栄達の門(6)	昭和13年12月25日(日)	22.3×33.3
42	『円明の巻』無為の殻(1)	昭和14年3月19日(日)	22.3×33.3
43	『円明の巻』無為の殻(2)	昭和14年3月21日(火)	22.3×33.3
44	『円明の巻』無為の殻(3)	昭和14年3月22日(水)	22.3×33.3
45	『円明の巻』無為の殻(4)	昭和14年3月23日(木)	22.3×33.3
46	『円明の巻』無為の殻(5)	昭和14年3月24日(金)	22.3×33.3
47	『円明の巻』苧環(1)	昭和14年3月25日(土)	22.3×33.3
48	『円明の巻』苧環(2)	昭和14年3月26日(日)	22.3×33.3
49	『円明の巻』苧環(3)	昭和14年3月28日(火)	22.3×33.3
50	『円明の巻』苧環(4)	昭和14年3月29日(水)	22.3×33.3
51	『円明の巻』苧環(5)	昭和14年3月30日(木)	22.3×33.3
52	『円明の巻』苧環(6)	昭和14年3月31日(金)	22.3×33.3
53	『円明の巻』苧環(7)	昭和14年4月1日(土)	22.3×33.3
54	『円明の巻』苧環(8)	昭和14年4月2日(日)	22.3×33.3
55	『円明の巻』苧環(9)	昭和14年4月5日(水)	22.3×33.3
56	『円明の巻』苧環(10)	昭和14年4月6日(木)	22.3×33.3
57	『円明の巻』円(2)	昭和14年4月8日(土)	22.3×33.3
58	『円明の巻』円(3)	昭和14年4月9日(日)	22.3×33.3
59	『円明の巻』円(4)	昭和14年4月11日(火)	22.3×33.3
60	『円明の巻』魚歌水心(1)	昭和14年7月1日(土)	22.3×33.3
61	『円明の巻』魚歌水心(2)	昭和14年7月2日(日)	22.3×33.3
62	『円明の巻』魚歌水心(4)	昭和14年7月5日(水)	22.3×33.3
63	『円明の巻』魚歌水心(5)	昭和14年7月6日(木)	22.3×33.3
64	『円明の巻』魚歌水心(6)	昭和14年7月7日(金)	22.3×33.3
65	『円明の巻』魚歌水心(7)	昭和14年7月8日(土)	22.3×33.3
66	『円明の巻』魚歌水心(8)	昭和14年7月9日(日)	22.3×33.3
67	『円明の巻』魚歌水心(9)	昭和14年7月11日(火)	22.3×33.3

第１回所蔵品展　水彩画の魅力　平成 21 年 6 月 12 日（金）～7 月 5 日（日）

水彩画は，幕末から明治にかけて油彩画とともに日本に紹介され，その描法の手軽さなどから広く普及し愛好されるようになった。はじめ，油彩画の制作の一過程の中で描かれたり，外国人向けの日本の風物を紹介する土産や輸出用として描かれるなどしていた。明治後期になるとヨーロッパで学んだ油彩画家の浅井忠や，水彩画家三宅克己らが優れた作品を描き，その普及にも努めるなど，いわゆる水彩画の全盛期を迎えた。大正期には，古賀春江などが個性的な作品を残し，昭和に入ってからは，中西利雄らによって不透明画法が紹介されるなど新たな展開がみられ，それに続く小堀進，春日部たすく，三橋兄弟治などの活躍により水彩画はより多彩な表現の広がりを見せるようになる。今日，水彩画は学校教育に取り入れられ，私たち日本人にとってもっとも慣れ親しんできた身近な絵画技法のひとつとなっている。本展では，その独特の軽やかさ，伸びやかな筆遣いなど水彩画ならではの魅力を，明治から昭和にかけて描かれた水彩画の秀作 25 点により紹介した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	浅井　忠	1856-1907	樹林	明治36年	水彩・紙	27.0×37.5	
2	二世 五姓田芳柳	1864-1943	筑波下北条町	不詳	水彩・紙	18.1×27.2	五姓田君代氏寄贈
3	二世 五姓田芳柳	1864-1943	御浜	不詳	水彩・紙	11.2×28.3	五姓田君代氏寄贈
4	藤島　武二	1867-1943	上海風景	昭和13年	水彩・紙	34.0×26.0	
5	三宅　克己	1874-1954	バッキンガム宮殿の前	大正期	水彩・紙	18.9×27.3	
6	石井　柏亭	1882-1958	風呂のこわれ(トルコ風呂)	明治44年	水彩・紙	27.3×35.0	
7	藤田　嗣治	1886-1968	インディアンの男女	昭和8年	水彩・紙	52.5×42.5	
8	小出　楢重	1887-1931	裸婦	昭和5年頃	水彩・紙	30.0×50.5	

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
9	安井　曾太郎	1888-1955	北京風景	昭和19年	水彩・紙	26.0×35.0	
10	古賀　春江	1895-1933	婦人	大正中期	水彩・紙	58.0×47.5	
11	中西　利雄	1900-1948	トリエール風景	昭和5年	水彩・紙	56.5×75.0	
12	中西　利雄	1900-1948	ルーブルの庭	昭和5年	水彩・紙	45.5×70.0	
13	中西　利雄	1900-1948	港の朝	昭和6年	水彩・紙	57.0×76.0	
14	春日部　たすく	1903-1985	風花	昭和39年	水彩・麻布	51.0×90.0	作者寄贈
15	春日部　たすく	1903-1985	ある日の夕映	昭和58年	水彩・麻布	73.0×117.0	
16	互井　開一	1904-1967	夏の石狩平野	昭和41年	水彩・紙	54.0×73.0	互井卓郎氏寄贈
17	小堀　進	1904-1975	花と雲	昭和31年	水彩・紙	83.0×118.0	寄託
18	小堀　進	1904-1975	夕照	昭和34年	水彩・紙	86.8×123.1	小堀昭氏寄贈
19	小堀　進	1904-1975	晨峯	昭和39年	水彩・紙	81.5×121.7	小堀昭氏寄贈
20	仁戸田　秀吉	1909-1970	パンジーを並べる(A)	昭和29年	水彩・紙	97.0×130.0	仁戸田寿子氏寄贈
21	酒泉　淳	1910-	白い船	昭和29年	水彩・紙	80.3×100.0	作者寄贈
22	三橋　兄弟治	1911-1996	窓辺	昭和45年	水彩・紙	145.0×112.5	作者寄贈
23	三橋　兄弟治	1911-1996	古城新雪	昭和59年	水彩・紙	112.0×145.0	
24	田中　実	1923-	ヴァイオリンを持つ女	昭和25年	水彩・紙	109.0×78.6	作者寄贈
25	小野瀬　進	1924-	丘上集落	平成3年	水彩・紙	130.0×97.0	作者寄贈

第２回所蔵品展　音の風景ー聞こえる絵画　平成 21 年 9 月 4 日（土）～10 月 12 日（月・祝）

日様々な事象を視覚的に表現する絵画作品は、実際に音を発することはないが、見る者が心静かに作品と相対する時、しばしば画面から音の響きを感じることがある。例えば、滝や波の音、風のざわめき、農漁村に暮らす人々の話し声など、作品から聞こえてくる様々な情景は、見る者の鑑賞をより深いものへと導いてくれる。本展では近現代の日本画 21 点を展示し、絵が発する響きに耳を傾け、画家達の絵画世界を感じられるような様々な音の風景を紹介した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	小川　芋銭	1868-1938	魚雨	昭和7年頃	紙本・淡彩・軸装	44.0×56.0	
2	小川　芋銭	1868-1938	ほにほろ	昭和12年	紙本・淡彩・軸装	20.6×52.6	
3	小川　芋銭	1868-1938	小六月	昭和12年	紙本・彩色・軸装	55.8×59.5	
4	小川　芋銭	1868-1938	河童百図(三味線のけいこ)	昭和12年	紙本・淡彩・軸装	34.0×65.0	
5	横山　大観	1868-1958	朝霧	昭和9年	紙本・墨画淡彩・屏風六曲一双	各173.0×368.0	
6	西郷　孤月	1873-1912	怒濤, 瀑布	明治33年頃	絹本・彩色・軸装(対幅)	各116.2×50.3	
7	菱田　春草	1874-1911	砧	明治38年	絹本・彩色・軸装	49.4×84.1	
8	飛田　周山	1877-1945	淼漫	昭和10年	絹本・彩色・額装	92.0×114.0	
9	森田　恒友	1881-1933	海辺風景	大正期	布・彩色・屏風二曲一隻	14.85×178.2	
10	小杉　未醒	1881-1964	楽人と踊子	大正10年頃	紙本・彩色・屏風二曲一双	各168.0×166.0	志村國作氏寄贈
11	永田　春水	1889-1970	春光熙々	大正15年	絹本・彩色・額装	239.0×140.0	
12	鴨下　晁湖	1890-1967	樵夫	大正期	絹本・彩色・軸装	126.5×41.0	
13	酒井　三良	1897-1969	汀	昭和36年	紙本・彩色・額装	103.0×133.0	
14	東山　魁夷	1908-1999	潮音	昭和44年	紙本・彩色・額装	53.7×72.7	寄託
15	杉山　寧	1909-1993	颯	昭和40年代	紙本・彩色・額装	72.5×54.5	寄託
16	浦田　正夫	1910-1997	瀧	昭和40年	紙本・彩色・額装	195.0×130.0	作者寄贈
17	森田　曠平	1916-1994	女神春秋―花鎮め	昭和57年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	174.0×362.0	寄託
18	森田　曠平	1916-1994	女神春秋―龍田姫	昭和58年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	174.0×362.0	寄託

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
19	加倉井　和夫	1919-1995	立琴	昭和57年	紙本・彩色・額装	218.5×119.0	寄託
20	大場　清仁	1921-	雨の日	昭和54年	紙本・彩色・額装	181.0×202.0	
21	川﨑　春彦	1929-	ネス湖	昭和60年	紙本・彩色・額装	225.0×163.0	作者寄贈

第３回所蔵品展　子どものいる情景　平成 21 年 11 月 28 日（土）～12 月 23 日（水・祝）

子どもたちは、古くから多くの画家たちによって絵画の中に様々に表現されてきた。母に抱かれた幼子の愛らしい仕草、無心に遊びに興じる子どもの姿などが、親子、兄弟、友人といった身近な人々や豊かな自然との関わりの中に描かれている。そこには、子どもの無垢で純真な心や喜びが溢れており、健やかな成長さえも感じ取ることができる。画家たちは、そうした子どもの姿に共感し、慈しみ深く子どものいる情景を描いているともいえよう。本展では、小川芋銭、菱田春草、辻永、永瀬義郎など近・現代の画家たちが描いた子どものいる情景を、日本画、油彩画、版画あわせて 28 点により紹介した。

●出品目録

〈日本画〉

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ	備考
1	小川　芋銭	1868－1938	水村童子	昭和8年頃	絹本・淡彩・軸装	132.0×41.7	
2	菱田　春草	1874－1911	菊慈童	明治34年	絹本・彩色・軸装	120×49.8	
3	木村　武山	1876－1942	小楠公	明治36年頃	紙本・彩色・軸装	140.3×64.8	
4	今村　紫紅	1880－1916	牧童	明治43年頃	紙本・墨画・軸装	148.0×46.0	
5	門井　掬水	1886－1976	夕浜	昭和15年	絹本・彩色・額装	185.0×226.0	
6	酒井　三良	1897－1969	雪	昭和38年	紙本・彩色・額装	74×105	
7	伊東　深水	1898－1972	春日	明治45年頃	紙本・彩色・額装	76.9×52.5	小倉耕之助氏寄贈
8	池沢　青峰	1899－1960	松下村塾	昭和17～18年頃	紙本・彩色・額装	136×167	塙ゆき氏寄贈
9	浦田　正夫	1910－1997	砂丘	昭和46年	紙本・彩色・額装	175.0×169.0	作者寄贈
10	森田　曠平	1916－1994	波止場	平成6年	紙本・彩色・額装	89.2×40.7	森田貞子氏寄贈
〈油彩画〉							
11	石井　柏亭	1882－1958	麻雀	大正15年	油彩・麻布	72.7×90.9	
12	辻　永	1884－1974	画房の一日	昭和6年	油彩・麻布	145.5×97.5	辻朗氏寄贈
13	熊岡　美彦	1889－1944	抱かれたる子供	大正10年	油彩・麻布	122.5×98.0	熊岡まゆみ氏寄贈
14	鈴木　清一	1895－1979	赤い本	大正11年	油彩・麻布	115.0×115.0	
15	柴田　三千春	1911－1968	遠足にて	昭和22年	油彩・麻布	89.0×114.0	作者寄贈
16	桂　　ゆき	1913－1991	ひまわりの咲く午後	昭和23年	油彩・麻布	72.5×91.5	
17	堀越　隆次	1916－1984	母と子(B)	昭和26年	油彩・麻布	162.0×130.0	堀越吟子氏寄贈
18	小又　光	1919－1978	追羽子	昭和22年	油彩・麻布	117.0×90.0	作者寄贈
〈版画〉							
19	永瀬　義郎	1891－1978	団欒	昭和30年	ステンシル・モノタイプ・紙	各71.4×51.6	3枚組
20	永瀬　義郎	1891－1978	こども	昭和46年	合成樹脂板・セルロイド板・紙	27.3×22.0	作者寄贈
21	永瀬　義郎	1891－1978	もの想う天使 〈花園のエンゼル〉	昭和51年	NP'73・紙	35.2×27.0	
22	永瀬　義郎	1891－1978	もの想う天使 〈どろんこ天使〉	昭和51年	NP'73・紙	31.2×26.3	
23	永瀬　義郎	1891－1978	もの想う天使 〈もの想う天使〉	昭和51年	NP'73・紙	32.0×26.2	
24	藤田　嗣治	1886－1968	小さな職業人たち 〈焼き栗売り〉	昭和35年	木版・紙	19.0×19.0	
25	藤田　嗣治	1886－1968	小さな職業人たち 〈印刷屋〉	昭和35年	木版・紙	19.0×19.0	
26	藤田　嗣治	1886－1968	小さな職業人たち 〈ポスター貼り〉	昭和35年	木版・紙	19.0×19.0	
27	藤田　嗣治	1886－1968	小さな職業人たち 〈すみれ売り〉	昭和35年	木版・紙	19.0×19.0	
28	藤田　嗣治	1886－1968	小さな職業人たち 〈風船売り〉	昭和35年	木版・紙	19.0×19.0	

第４回所蔵品展　現代日本画家の情熱ー天心記念茨城賞の画家を中心に
平成 22 年 2 月 19 日(金)～3 月 31 日(水)

本展では，将来を嘱望される画家の育成と日本美術の発展に寄与することを目的に、平成７年（1995）から毎年、茨城県が再興院展に提供している天心記念茨城賞を受賞した作品を中心に、戦後から平成にかけて活躍する日本画家の作品 24 点を紹介した。画家たちは、これまでの伝統的絵画を踏まえつつも、常に新しい表現を模索し続けている。作品は自然の風物を主題として華麗な色彩美と写実的な表現を特徴とするものや、人間の営みを深く見つめて描くものなど様々だが、そこでは、主題を前にいかに表現するかという課題に正面から向き合う画家の真摯な制作姿勢がうかがえる。画家たちの情熱が感じられる個性豊かな作品を展示した。

●出品目録

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ	備考
1	那波多目　煌星	1905－1989	化身	昭和50年	紙本・彩色・額装	222.0×162.0	作者寄贈
2	高崎　興	1908－1985	浄心	昭和58年	紙本・彩色・額装	227.0×182.0	高崎興一氏寄贈
3	浦田　正夫	1910－1997	悠	平成3年	紙本・彩色・額装	167.7×197.0	作者寄贈
4	吉田　善彦	1912－2001	浅間月明	昭和53年	紙本・彩色・額装	162.1×130.3	寄託
5	郷倉　和子	1914－	爽春の朝	平成17年	紙本・彩色・風四曲一隻	150.0×216.0	作者寄贈
6	森田　曠平	1916－1994	大原女三題ー遠い日	昭和57年	紙本・彩色・額装	90.0×60.7	寄託
7	森田　曠平	1916－1994	大原女三題ー夕化粧花	昭和58年	紙本・彩色・額装	94.5×64.0	寄託
8	森田　曠平	1916－1994	大原女三題ー洛北おとめ	昭和59年	紙本・彩色・額装	91.0×52.0	寄託
9	加倉井　和夫	1919－1995	仙苔	昭和62年	紙本・彩色・額装	145.0×200.0	寄託
10	西村　昭二郎	1927－1999	夕風・夏柳	昭和52，53年	紙本・彩色・屏風四曲一双	各167.0×227.0	西村淑子氏寄贈
11	鎌倉　秀雄	1930－	燿	平成10年	紙本・彩色・額装	180.3×226.5	作者寄贈
12	小谷津　雅美	1933－	終宴	平成10年	紙本・彩色・額装	218.5×173.5	第4回天心記念茨城賞
13	那波多目　功一	1933－	廃園	昭和58年	紙本・彩色・額装	160.0×112.0	
14	川瀬　麿士	1941－	山	平成9年	紙本・彩色・額装	175.0×220.0	第3回天心記念茨城賞
15	菊川　三織子	1944－	花影	平成7年	紙本・彩色・額装	210.0×168.0	第1回天心記念茨城賞
16	倉島　重友	1944－	川風	平成13年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第7回天心記念茨城賞
17	齋藤　満栄	1948－	秋晨	平成12年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第6回天心記念茨城賞
18	西田　俊英	1953－	寂光	平成8年	紙本・彩色・額装	218.0×172.0	第2回天心記念茨城賞
19	小田野　尚之	1960－	見送る人	平成14年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第8回天心記念茨城賞
20	岡田　眞治	1962－	冬のベネチア	平成15年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第9回天心記念茨城賞
21	井出　康人	1962－	奏園	平成18年	紙本・彩色・額装	221.0×175.5	第12回天心記念茨城賞
22	宮北　千織	1967－	うつろふ	平成16年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第10回天心記念茨城賞
23	國司　華子	1960－	忘レ物ノ行方	平成17年	紙本・彩色・額装	225.0×180.0	第11回天心記念茨城賞
24	岩永　てるみ	1968－	La vue d'Orsay	平成19年	紙本・彩色・額装	218.0×173.0	第13回天心記念茨城賞

３　岡倉天心記念室

（１） 五浦の作家たちの作品展示

茨城県近代美術館等が所蔵する横山大観，下村観山，菱田春草，木村武山ら五浦の作家たちの作品を選び，年6回の展示をした。

●会期及び出品目録

■第１回　　5月２日（土）～7月５日（日）

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ	備考
1	横山　大観	1868－1958	水國の夜	明治 44 年頃	絹本・彩色・軸装	157.0×86.0	
2	横山　大観	1868－1958	月明	昭和６年頃	絹本・彩色・軸装	136.6×41.7	
3	菱田　春草	1874－1911	林和靖	明治 41 年	絹本・彩色・軸装	116×50.3	

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ	備考
4	木村　武山	1876－1942	菅公太宰府配處之図	明治末期	絹本・彩色・軸装	111.0×41.0	
5	木村　武山	1876－1942	不動明王（模写）	昭和2年頃	絹本・彩色・軸装	123×72	寄託
■第2回		7月7日（火）～9月4日（金）			特別展示　旧サースビー・コレクション		
1	岡倉　天心	1862－1913	海辺の松	明治37年	絹本・彩色・額装	49.4×87.9	寄託
2	岡倉　天心	1862－1913	山水の図	明治37年	絹本・墨画・額装	80.7×27.4	寄託
3	岡倉　天心	1862－1913	竹の図	明治37年	絹本・彩色・額装	91.6×24.0	寄託
5	横山　大観	1868－1958	岩礁の鵜	明治37～38年	絹本・彩色・額装	49.9×87.6	寄託
6	下村　観山	1873－1930	帰猟の図	明治37年	絹本・彩色・額装	79.7×48.9	寄託
■第3回		9月5日（土）～10月30日（金）					
1	横山　大観	1868－1958	峠の夕	明治36年	絹本・彩色・軸装	40.5×65.5	
2	横山　大観	1868－1958	鹿島神宮	昭和3年	絹本・淡彩・軸装	149.0×57.0	No.3と対幅
3	横山　大観	1868－1958	筑波山	昭和3年	絹本・淡彩・軸装	149.0×57.0	No.2と対幅
4	菱田　春草	1874－1911	五浦ノ月	明治42～43年	絹本・彩色・軸装	113.6×50.7	
5	木村　武山	1876－1942	日月秋冬	大正期	絹本・彩色・軸装（対幅）	各129×40.1	檜座一臣氏寄贈
■第4回		10月31日（土）～12月23日（水）					
1	横山　大観	1868－1958	月満山	昭和12年	紙本・墨画・軸装	65.0×99.0	
2	菱田　春草	1874－1911	落葉	明治42年	絹本・彩色・屏風二曲一双	各152.8×151.8	開発公社寄贈
3	木村　武山	1876－1942	黒猫	大正7年頃	絹本・彩色・軸装	127.2×41.5	大塚子之吉氏寄贈
■第5回		12月24日（木）～平成22年2月28日（日）			特別展示　旧サースビー・コレクション		
1	岡倉　天心	1862－1913	日の出（画賛）	明治37年	絹本・彩色・額装	63.3×46.7	寄託
2	岡倉　天心	1862－1913	月（画賛）	明治37年	絹本・彩色・額装	48.5×35.8	寄託
3	岡倉　天心	1862－1913	ロバと人物	明治37年	絹本・彩色・額装	49.0×86.3	寄託
4	横山　大観	1868－1958	松月雪景	明治37～39年	絹本・彩色・額装	87.5×50.0	寄託
5	横山　大観	1868－1958	風雪に鷺	明治37～40年	絹本・墨画彩色・額装	87.1×49.8	寄託
6	横山　大観	1868－1958	雪影	明治37～41年	絹本・彩色・額装	77.1×53.8	寄託
■第6回		3月2日（火）～4月30日（金）					
1	横山　大観	1868－1958	赤壁	明治35年頃	絹本・彩色・軸装	123.5×48.2	
2	横山　大観	1868－1958	釈迦	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	117.0×50.0	寄託
3	下村　観山	1873－1930	雨中鷺	明治41年頃	紙本・墨画・軸装	70×121.3	
4	菱田　春草	1874－1911	春の漁	明治42年頃	絹本・淡彩・軸装	129.0×51.0	寄託
5	木村　武山	1876－1942	義家勿来関	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	120.3×50.7	寄託

（2） 資料テーマ展示

●テーマ名　ブリンクリー『ジャパン』誌と天心の作品解説　I

●期　　間　平成21年4月18日～12月24日（木）

●内　　容　明治30年(1897)から翌年にかけてアメリカで出版された『ジャパン』誌10巻は、当時の日本で活躍していたジャーナリストのブリンクリーにより編集執筆された豪華本で、日本の歴史、文化、風習の詳細な解説を中心に、著名な写真家によるコロタイプ製版写真や、写真に丁寧な手彩色がほどこされた図版などを収載した日本風俗の紹介図鑑とも言えるものであった。そして、毎回このシリーズの最後に、特典のように掲載されていたのが、多色刷り木版画による日本美術の複製画であり、それに添えられた当時東京美術学校の校長を務めてい

た岡倉天心による解説文である。ブリンクリーと天心との関わりは、この本以外にはほとんど知られていないが、日本の文化、美術をこよなく愛し、当時の報道分野で活躍していたブリンクリーが、天心との知遇がなかったと考える方が不自然だと思われる。

今回のテーマ展示では、当館の資料コレクションの中から、この『ジャパン』誌を紹介するとともに、その中に掲載された天心による解説文を読むことによって、掲載された日本美術の魅力を紹介した。

●展示資料　ジャパン第１巻，ジャパン第４巻

●テーマ名　ブリンクリー『ジャパン』誌と天心の作品解説　Ⅱ
●期　　間　平成21年12月25日（金）～平成22年4月18日（水）
●内　　容　＜Ⅰに同じ＞
●展示資料　ジャパン第１巻，ジャパン第３巻，ジャパン第９巻